

芦屋の奥山をコバノミツバツツジとアカマツノ森にしたい!

芦屋森の会2001

創立：2001年3月、会員33名、
年会費1000円/人

場所：芦屋市奥山

(阪急芦屋川駅からバス8分の
芦屋ゲートバス停下車5分)

活動日：毎月2回(第1、第3日曜日)
am10:00~ pm3:00

かつて里山であった活動地「石仏谷」は何百年もかけて先人が自然に働きかけて築いた文化財で



常緑樹から開放されたコバノミツバツツジ 170 株の小丘陵

す。それが放置されたため、現在は崩れた土砂を洗う谷川、倒木と朽ち木が散乱する暗い木立ち、そして生い茂った藪地です。

我々は現状をもとに将来の姿を見据え全域を大まかにコバノミツバツツジとアカマツ区、落葉樹林区、照葉樹林区、スギ・ヒノキ樹林区、タニウツギ区等に定めています。

そして植樹、移植、立ち木の伐採・枝払い・切り戻し、草・ササ刈り、土留めの施工、作業道・木段作り、池掘りなど各種の自然保護(保存、保全、回復、防護、維持)作業を続けて、全域を多様な景観をもつ森に修景しています。

さらに域内大小3本の谷川は、活動の進展に伴って森の中に穏やかで潤いのある雰囲気を感じています。

石仏谷を生物の多様性に期待し、市民のための保健と癒しの場、青少年のための森林体験と学習の場になりたいと考えています。

現時点で多少の自慢は、時節折々に見事に展開しているものは以下です。

- 1 150mにわたり谷の兩岸を被っている高さ2mのヤブウツギ1100本
- 2 池の側400㎡にはタニウツギ130株とアカマツ90本が混交する。
- 3 市の花コバノミツバツツジ170株が群生する小丘陵(コバミツ丘と呼ぶ)。
- 4 高さ3m×径13cmのアカマツ150本の林。
- 5 萌え色の画布を、紅紫色と白色にそれぞれ織りなすコバノミツバツツジとヤマザクラ
- 6 掘りあげた100㎡の浅い池はトンボとイモリのデートの場
- 7 春は萌え色の光に満たされ、冬は落ち葉が降り積もる日溜の落葉樹林。流水の音が一層辺りを静かにする。



藪の刈り払い作業・跡地にタニウツギとアカマツを混植

珍しいものではありませんが、創立以来観察して来たものは以下の通りです。

- 1 植物は木本92種、草本39種。
- 2 鳥類は17種、動物はイノシシ、リス、ノウサギ、イタチ、リスなど
- 3 蝶類は15種、蛾類は4種
- 4 池・谷にはトンボ4種、イモリ、サワガニ、ヤマアカガエル、アマガエル、アメンボ、カゲロウ、ヤゴ、シマヘビ

■連絡先

代表者 村上敏彦
〒659-0041 兵庫県芦屋市若葉町2-1-1623

■E-Mail: ttakashi@mx2.wt.tiki.ne.jp

TEL : 0797-31-5879
FAX : 0797-31-5879

■主な活動地名

芦屋市奥池の石仏谷(会の通称地名)

ミツバチは永久の友 アピス同好会

私たちの会は、兵庫県三田市の兵庫県立人と自然の博物館の敷地内で養蜂の実習活動をしており、博物館主催の「愛蜂家基礎講座」の修了生が集って、同好会を結成しました。

兵庫県は日本海と太平洋側に面していて、海・山の自然に恵まれた環境です。

博物館には自然をテーマの研究者が多く在籍しているので、わからないことは的確なアドバイスが受けられるという環境でミツバチの飼育をしています。

養蜂活動の一環として、各地から公園や軒下にできた蜂の巣を取ってほしいとの連絡を受け、殺すことなく捕獲して、飼育&増殖しています。

ニュースでもたびたび報道されていますが、ミツバチが失踪する事件?が世界各地で起きています。研究者はこれを CCD と呼んで警告しています。失踪の原因は複合汚染とも言われていますので、ミツバチたちが生きてゆける環境作りを今後



の大きな目標として活動していかなければなりません。

ミツバチとつきあって感じることは、一つのコロニーは高等生物並みの高度で複雑な仕事を達成する本能を備えて、整然と社会生活を営んでいることの驚き!!。

たとえば、ローヤルゼリーを食べ続けた幼虫のみ女王バチとなり、毎日最大2,000個の卵を産み続け、雌雄の産み分けという神業もやっているので。

働き蜂は内勤と外勤に分かれ、指導者もおらず効率も無視しているのに、うまく仕事をこなしていきます。働き蜂は生涯かけて1~5gの花蜜を集め、半径は2~3km。小さな体に蜜をいっぱいためてフーフー言いながら元の巣にきちんと戻ってくる、また、大きな花粉団子をつけて帰ってくる様は可愛い!の一言に尽きます。

体の大きさからすると相当な距離を覚えて帰ってくる不思議さ。この不思議社会を見ているとわ

からない事がたくさんあり、それがまた魅力につながっていきます。そして、もっとハチの世界を見習わなくてはならないことも多々ある気がします。

ミツバチを通じて気がついたことは、どんな小さな生物でもお互い関わり合って生存していること。すべての生き物が連鎖の中で生きている、その頂点が人間。その人間の手によって自然が壊されて、ミツバチがいなくなる事を知り、蜂を保護



■連絡先

代表者 中村専一

〒651-1412 兵庫県西宮市山口町下山口4-5-3 中村専一方

TEL : 078-904-4445

FAX : 078-904-4445

■主な活動地名

人と自然の博物館

すき間緑化で工業地域を緑いっぱい・生き物いっぱい

尼崎南部グリーンワークス

兵庫県尼崎市は、高度経済成長期に阪神間の工業を支えてきた「工都」として知られています。今でも大規模から小規模まで様々な工場がありますが、中でも敷地面積が3000平米以下の小規模工場は、工場立地法による緑化義務が無い上に、建物が敷地いっぱいに建てられているため、今後も緑化スペースを十分には確保できません。さらに工場という性質上、緑化やその維持管理に手間や費用をかけにくいですが、一方で尼崎を緑いっぱいのまちにしたいと思っている工場関係者が多くいることも事実です。

私たち尼崎南部グリーンワークスは、尼崎21世紀の森づくり構想のエリアを中心に、中小規模工場の敷地や壁面といった「すき間」を緑化する活動を進めています。活動の中心は、尼崎鉄工団地共同組合の駐車場でのモデルづくりです。本組合の協力の下で、外階段を利用したネット緑化や、ネットフェンスを活用した壁面緑化、側溝と壁の間のわずか50cmほどのスペースへの樹木の植栽など、様々な緑化に取り組んできました。徐々に私たちの会の趣旨に賛同していただける工場も増えてきて、今では7つの工場が私たちと協働し、または独自に「すき間緑化」に取り組んでくださっています。

環境条件の悪い中で、できるだけ郷土種を用いる努力もしています。ネットフェンスの緑化のモデルには兵庫県産のアケビやナツフジ、ノブドウを、露地には兵庫県産のノジギクを、駐車場の周囲等の高木緑化には兵庫県産のコナラ・アラカシ・センダンを用いています。これに果樹

や花の咲く草本を組み合わせることによって、工場関係者の方々が楽しく「すき間緑化」に取り組まれる工夫をしています。

これからは、すき間緑化に取り組んでいただける工場を増やしながら、この手法を学校や一般住宅に広げていきたいと考えています。平成21年度から、尼崎市内の小学校にてグリーンカーテンづくりのお手伝いを始めています。また、毎年、一般向けに勉強会や見学会、フォーラムを開催するなどして、普及に努めています。また、今後も尼崎21世紀の森づくり協議会やアマフォレストの会と協力して、尼崎の森中央緑地の森づくりに多くの人に関わり、尼崎が緑いっぱい・生き物いっぱいのまちになるよう取り組んでいきたいと考えています。



ノブドウとノジギクによる緑化

尼崎鉄工団地のミツバチ

私たちのすき間緑化に協力いただいている尼崎鉄工団地共同組合の皆さんが、平成22年からミツバチを飼い始めました。3kmほどの範囲から蜜を集めるとのことで、ほとんどが工場地帯の花から採られるものです。私たちは、この可愛いミツバチを「尼崎の工業地域が花と緑でいっぱいになる」象徴の一つとして、採れる蜂蜜を楽しみにしています。

施設屋上に設置された巣箱



ミツバアケビを用いたネット緑化



工場敷地周りの緑化例



生き物（蝶）に配慮したコンテナ緑化

■連絡先

代表者 黒田光枝
〒660-0843 兵庫県尼崎市東海岸町1-63
鉄工団地事務所内

TEL : 06-6409-1451
FAX : 06-6409-1454

■主な活動地名

尼崎市内の工業地域・学校など

民・産・官の協働で環境と産業を融合する

尼崎21世紀の森づくり協議会

兵庫県尼崎市の臨海地域は、重化学工業を中心にして日本の産業・経済をリードしてきましたが、同時に公害の発生など環境面での課題を抱えてきました。また、近年の産業構造の変化によって、工場の遊休地が発生するなど地域の活力が低下しており、その再生が求められています。

平成14年3月、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりをめざして「尼崎21世紀の森構想」が策定されました。私たち尼崎21世紀の森づくり協議会は、本構想を実現すべく、市民・企業・行政が一体となって取り組んでいます。

この協議会には、発信部会・まちづくり部会・産業部会・森部会の4つの部会があります。部会毎に様々な活動を進めていますが、特に生物多様性に関するものとして工場緑化の推進があります。平成17年度～18年度に「尼崎21世紀の森工場地域みどり景観創出方策検討会」を開催し、構想エリアに立地する企業と尼崎21世紀の森型工場緑化の意義について検討した結果として、パナソニックPDP(株)や住友金属工業(株)を代表とした企業による工場緑化の取り組みに進展しました。これらの工場緑化を更に進展させるべく、尼崎21世紀の森づくりに寄与する活動の感謝状授与制度を創設し、企業の御尽力を称えるとともに、「企業活動と緑豊かな景観づくりの両立をめざした新しい地域貢献の取り組み～尼崎21世紀の森型工場緑化ガイドブック～」を作成・頒布し、企業への普及・啓発を続けています。平成20年度

には「尼崎市工場立地法の特例措置及び景観と環境に配慮した工場緑化等の推進に関する条例」を尼崎市が策定する等、行政の取り組みと連動してより質の高い工場緑化を推進しています。

平成22年以降、シンボル事業である尼崎の森中央緑地において、本格的な地域産苗による植樹が始まります。これまで市民団体「アマフォレストの会」が行ってきた種子採取から植樹・管理を、他団体と共に進めるしくみを検討するとともに、森づくりを通してより広く市民が尼崎21世紀の森づくりを知り・考え・行動することを推進するため、植樹祭等の普及・啓発事業に取り組んでいく予定です。

尼崎臨海部の運河群

尼崎の臨海部には北堀運河をはじめとする多くの運河があり、市民が水辺に親しむことができます。近年の水質調査結果では水質改善が確認され、アマモやヨシの育成実験や各種水質浄化実験も実施されています。私たちは、今後も「尼崎運河博覧会(うんぱく)」等のイベントを継続しつつ、多様な海の生き物が戻ってくるのを期待しています。



運河を楽しむ市民



尼崎臨海部の構想エリア



尼崎の森中央緑地での植樹祭



従前の沿道の様子



壁を取り払い沿道緑化した後の景観

■連絡先

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
兵庫県土整備部まちづくり局公園緑地課21世紀の森室

TEL : 078-341-7711
(内線 4596)
FAX : 078-362-4454

■ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~ama21/top.htm>

■主な活動地名

兵庫県尼崎市・国道43号以南の「尼崎21世紀の森構想エリア」

地域のタネから苗木を育てる、100年の森づくり

アマフォレストの会



アマフォレストのキャラクター〈左〉
みんなで採取した種子をまきます〈右〉

尼崎の森中央緑地は、尼崎の臨海地区の工業地域にある約29haの埋立地です。かつて製鋼所などの工場があったこの埋立地に平成18年から、兵庫県の尼崎21世紀森構想の一環として、「地域の生物多様性の復元」をキーワードにした特色ある森づくりを行っています。アマフォレストの会は、中央緑地の森づくりを進める市民団体です。

尼崎の森中央緑地の森づくり 3つの約束

1. 地域の森が手本です。中央緑地を取りまく武庫川と猪名川の流域、六甲山系・北摂山系を目標地域として、ここに存在している、またはかつて存在したと考えられる森や草原の姿を手本にします。単にドングリなどの高木種を植えるだけでなく、その下に生える低木や草本なども植えて、少しでも本物の森に近づけることで、さまざまな昆虫や鳥などの動物も生育することができる「生態系」として成り立つ森を目指しています。



種子から約1年間、ビニールハウスの中で育てます



小学生の体験学習で植樹に参加

2. タネから森を作ります。森を作る苗木は、地域の遺伝子の多様性を守るため、目標地域の外からは持ち込みません。しかしこのような地域性苗木は一般の苗木市場にはほとんど流通していません。そこで自分たちで森へ出かけて種子を採取し、苗木を育てています。これまでに100種類近い地域性苗木を育成しました。今後10年で20万本の苗木を育て、植える計画です。
3. みんなの力で育てます。森の少ない尼崎の地に、市民の力で100年の森づくりを進めていきます。

アマフォレストの会は、尼崎の地にいきもの豊かな森を育てるとともに、その大切さ、楽しさをたくさんの人に知ってもらうため、植樹会の開催やさまざまなイベントへ参加して苗木の里親募集などのPR活動を行っています。また小学校など

の環境体験学習を受け入れ、木の不思議や育苗・植樹作業の体験をしてもらい、森づくりの大切さを伝えています。



活動風景



垣根も種類の多様な「混ぜ垣」を作っています

まだ4年目の森づくりですが、工場地帯の中にある中央緑地にバッタやトンボ、カマキリ、テントウムシなどたくさんの昆虫が住み着きました。やっと背丈を越えるほどの苗木にモズのはやにえも見つけました。子どもたちが虫を捕まえ、木の実で遊ぶ、生き物豊かな森が少しずつ育っていくのを楽しみに活動しています。定例活動日 毎月第1日曜日・第3金曜日（詳しくはメール・HPなどで確認ください）



森にバッタやカマキリ、色々な生き物が集まってきました

■連絡先

代表者 高木一宇

〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7-21

兵庫県阪南県民局尼崎港管理事務所21世紀プロジェクト推進室

■ホームページ <http://www.geocities.jp/amaforest2008/>

■E-Mail : amaforests@yahoo.co.jp

■主な活動地名

尼崎 21世紀の森 「尼崎の森中央緑地」

昆虫や自然への学びを（楽しく）深めよう

伊丹市昆虫館友の会



「楽しい・わかりやすい・体験できる」自然史系ミュージアムを標榜している伊丹市昆虫館と連携し、「深く昆虫館と関わり、昆虫や自然への学びを（楽しく）深めよう」とする人々の集まりとして、2004年1月に「伊丹市昆虫館友の会」を発足させました。

友の会の具体的な活動としては、

- ①会員を対象とした昆虫観察会や自然観察ハイキングの実施。
- ②各種の調査活動（合宿調査を含む）や講座等の開催。
- ③会員向けの「友の会ニュース」の発行。

④毎年開催の総会時に、斯界の専門家を招いての記念講演会。

⑤伊丹市昆虫館主催の各種行事への協力等を行っています。

伊丹市昆虫館友の会は、活動場所として、野鳥の楽園として有名な昆陽池公園（昆虫館のあるところ）や猪名川河川敷等の伊丹市内を中心に、広く市外にもフィールドを広げ、運営委員18名が伊丹市昆虫館職員の協力を受け運営しており、とにかく、「アットホームで会の雰囲気ですばらしい」のが自慢です。

私たちがおすすめする素敵な生き物、自然、風景、活動！

友の会会員は、老若男女・初心者からプロ級の人まで、多種多様です。みんなが、それぞれのレベルで楽しんでいます。「ムシ」好きの人は、私たちといっしょに活動し、交流の輪を広げませんか？



■連絡先

代表者 井上治彦

〒664-0015 兵庫県伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館内

■ホームページ <http://itakon.fc2web.com/>

■E-Mail : ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

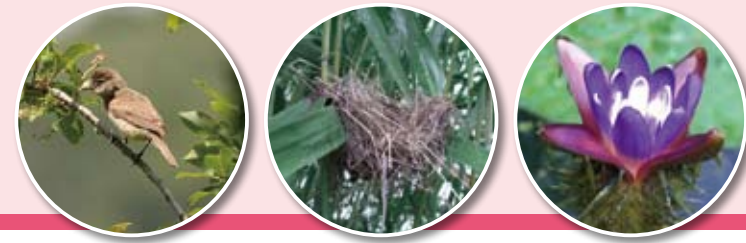
TEL : 072-785-3582

FAX : 072-785-2306

■主な活動地名

伊丹市昆陽池公園

昆陽池の水辺環境再生、オニバス再生を目指して 伊丹の自然を守り育てる会



昆陽池で繁殖している
オオヨシキリ〈左〉
オオヨシキリの巣〈中〉
オニバスの花〈右〉

「伊丹の自然を守り育てる会」は伊丹市と協働で昆陽池公園を中心に自然環境の保全・再生に取り組んでいる団体です。三つの部会に分かれ、活動を行っています。川部会は公園内の水路を活用し、ホタルの再生や水辺生物の環境づくりに、森部会はカワウによって枯死化が進んだ野鳥の島の樹林再生をはじめ、樹林帯の再生や管理に、池部会はヨシ原の再生や伊丹の希少植物であるデンジソウ・オニバスの保護・増殖に取り組んでいます。今回は池部会のオニバスの保護・増殖に関する取り組みを紹介します。



発芽したばかりのオニバスの芽

オニバスはスイレン科の1年生の大型の水草で紫色の小さな花を咲かせます。昔は各地のため池などに生育していましたが、ため池の埋め立てや水質汚濁などの影響で減少、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、兵庫県のレッドデータブックでBランク（絶滅の危険が増大している

種）に指定されています。昆陽池でも昭和40年代までは生育していましたが、その後は確認されておりません。現在、保護・増殖に取り組んでいるオニバスは伊丹市の黒池・西池産のもです。ここも、2002年を最後に発生が確認されていません。2005年2月に市民団体である「あーす・いたみ」が地権者の了解を得て、15個の埋土種子を採取、それらを植木鉢やベビーバスに播種、種子を増やす取り組みを始めました。2006年からあーす・いたみから種子を引き継ぎ、昆陽池公園内において市と連携し、オニバス再生に向けた活動を行っています。これまで、昆陽池公園だけでなく、市内の学校をはじめとした公共施設や民地でもオニバスを育て、種子を確保する取り組みを行い、2010年3月には2000粒を超える種子を得ることができました。

オニバスは発芽率が悪いので、種子を多量に確

保しつつ、さまざまな取り組みを実施していく必要があります。2010年は市内の中小高校の7校に校庭でオニバスを育ててもらい取り組みを実施しています。このことで、少しでも多くの子供たちにオニバスの存在を知ってもらい機会になればと思います。昆陽池ではできるだけ自然な状態で生育できるような工夫も行っていきますが、土壌や天敵など多くの問題があり、試行錯誤の連続です。また、今年初めて、自生地であった黒池にも種子を播いてみましたが、残念ながら発生は確認されていません。

この活動を継続することでオニバスの種の保存を図りつつ、将来的には、黒池・西池で再びその姿が見られるように取り組んでいきたいと考えています。



植木鉢で順調に生育するオニバス

伊丹の自然を守り育てる会 池部会では、昆陽池公園を中心に月1回（平日、半日程度）の活動を行っています。会員も少数で大きな活動はできませんが、市内の中高校生の協力を得ながら、希少種オニバスの保護・増殖をはじめ、デンジソウの保護、昆陽池の原風景であるヨシ原の再生に取り組んでいます。この春には池のあちらこちらでオオヨシキリの声や姿を見ることができました。近くにお住まいでこのような活動に興味のあり、参加してみようという方は、事務局若しくは伊丹市みどり公園課（072-784-8134）までご連絡をお願いします。



成長したオニバスの葉（直径約70cm）



市内の中学・高校生の協力を得て、オニバスの播種を実施



葉を突き破って咲いたオニバスの花

■連絡先

代表者 会長 服部 保
〒664-0015 兵庫県伊丹市昆陽池3丁目1番地
伊丹市昆虫館内

TEL : 072-785-3582
FAX : 072-785-2306

■主な活動地名

伊丹市 昆陽池公園

自然に親しみながら、新しい里山のあり方を創造する。

川西里山クラブ

川西市黒川地区は、茶道などに用いる高級炭（菊炭）で全国的に知られています。この菊炭は茶道の必需品であり、現在も生産されています。

菊炭の生産に欠かすことのできないクヌギが、長年の萌芽再生の繰り返しにより台場クヌギとして利用されてきました。この台場クヌギは、昆虫たちの憩いの場所となり多くの昆虫が集まります。

また、北摂一帯の川西、宝塚、猪名川、能勢、箕面は鉱山としても栄え間歩や精錬所跡があり、兵庫県の絶滅危惧種Cランクの山桜の一種である「エドヒガン」の群落（群落としてはBランク）が点在します。



桜谷はエドヒガンが多く存在します

このような環境に恵まれた山々は、クヌギ林が定期的（約10年毎）に伐採され、各年度に伐採されたクヌギ林が、パッチワークの模様を呈します。春にはエドヒガンやヤマザクラが山を彩り、秋にはクヌギの紅葉が楽しめます。この事により現在に至るまで、利用されてきた里山として「日本一の里山」との評価を受けています。



一般市民を対象とした里山観察会の遊歩道作り

しかし、現状は炭の生産量も激減し山は人の手が入らない部分が多くなって来ています。ネザサやツルに覆われて、樹木は遷移が進み林層の間には、常緑樹が目立って来ています。林床には光が届かず、草本類も貧弱になって来ております。

私たちの活動地（川西市黒川奥滝谷）は能勢妙見山の中腹のケーブル山上駅（海拔490m）に位置します。ここは、能勢電鉄の社有地で50haのうちケーブルとリフトの施設関係が10haを占め40haが提供されています。

川西里山クラブでは、水広場から薪炭林（コナラ、クヌギ）を通り、炭窯跡



エドヒガンの小径への回遊路



春の遊歩道散策には、絶滅危惧種のエドヒガンが満開です（左）大きな樹木に囲まれて光が届きません。周囲を整理し保護しました（中）こんな所にも絶滅危惧種のキンランが息づいていました（右）

や放置林（整備された部分と比較するため一部整備をしないでそのまま残した部分）を見ながら桜谷に降り、エドヒガンの群生地（礫岩の傾斜地）から水琴窟へと遊歩道を新たに完成しました。コナラ、クヌギ、などの薪炭林の中にキンラン、ギンラン、ササユリ、ツルリンドウなどの草本類やヤマボウシ、カナクギノキ、ホウノキなどの木本類を見ることが出来ます。また、山上にブナの原生林（標高約660m。ブナ自生の南限とされています。）がありますが、面白い事に私たちの活動地にも1本ブナの木を確認しています。



コナラは11月に伐採し、1ヶ月後集材します



里山まつりでは、自然の素材を生かした作品が楽しみ

この活動地は市民のレクリエーションや里山観察の場として育てて行きたいと思っています。また、コナラ、クヌギなどの間伐により倒した材を利用するためにシイタケ栽培や薪作りに取り組んでいます。最近薪ストーブの愛好家やピザやパンを薪で焼くこだわりのお店などが出来てきています。それらの消費者と連携を取りながら里山の活用を推し進めたいと思っています。

私たちが目指す能勢妙見山の未来像

1. 生物多様性の保全

☆クヌギ、コナラ林が優先する薪炭林を利活用するために薪やシイタケの栽培により、明るい薪炭林へ導く。

☆エドヒガン群生地の保護育成。

2. 環境学習の場としての活用

☆一般市民や子供たちが遊歩道を利用して、多くの生物に接し生きた学習の場として整備する。

☆自然の素材（ソコゴやリュウブの伐採木を中心にどんぐりなど）を利用した木工クラフトづくりや葉脈しおりなどにより、市民の関心を高める。

■連絡先

代表者 辻本 哲

〒666-8501 兵庫県川西市中央町12番1号

川西市役所 地域活性室 農林・労政課内

■ホームページ <http://str1685.exblog.jp/>

■E-Mail : ppkj90364@maia.eonet.ne.jp

TEL : 072-740-1164

FAX : 072-740-1332

■主な活動地名

川西市黒川奥滝谷（能勢妙見山）

自然のヒミツをさがそう、考えよう、活用しよう!

川西自然教室

(17年間の活動の広がり)

毎月第二土曜日の自然観察会を基本として進めて来たが、その内、気の合った仲間により特定テーマのグループがドンドンと立ち上って来た。

多田のゴミを拾い隊、多田ガラスを見る会、川西きこクラブ、黒川いなかクラブ、同特別例会竹炭焼きまた、大きなテーマが出来て独立した友好団体も生まれた。

猪名川の景観を守る会、猪名川のゴミを拾う会



僕達もキノコを見つけたよ!

(季節に応じた特別行事や調査)

- 1月 新春恒例花札大会 & 果実酒大会
- 2月 市内水鳥一斉調査
- 3月 加茂のヒメボタルの竹やぶごみ拾い
- 4月 黒川野草を食べる会、加茂の桃源郷
- 5月 加茂のヒメボタル調査、妙見山頂ブナ林一泊観察会
- 6月 市内ゲンジボタル一斉調査
- 7月 妙見山上ヒメボタル調査&ムササビ探検隊川西市一の清流・芋生川のそうじセミの羽化観察会

- 8月 市内一斉せみの鳴き声調査
鳴く虫・マドホタル・ナイトウォーク
- 9月 セミの抜け殻調査
特別講座 伊丹緑道探検
- 10月 初谷川きこ教室
- 11月 川西の市花・リンドウ調査
石道芋煮会

自然に関する行事が目白押し 一度覗いて見てください。
詳細はホームページ、月刊会誌「こげらだより」を御覧下さい。

7月26日 **なぜニイニイのカラーは土まみれ?** 野口佳純

セミの羽化を見る会

この前の『セミのうかの観察』は、すごく楽しかったです。わたしは、セミのうかを見れませんでした。けど、『はね』が白いセミを見れてとてもうれしかったです。初めて見たので、木に止まっていたら、木が、セミのはねが『どうめい』だから引けて見えてびっくりしました。

『ニイニイゼミ』の『ぬけがら』には、目、いいい所に土がついていて、何で『あぶらゼミ』の『ぬけがら』には土がついていないのか知りたいです。

なぜニイニイのカラーは土まみれ?

私はこのキノコの色と形を見て「生き物の造形力はすばらしい」と素直に感動しました。もし観察会で、このような生き物に予期せずに出会うことが出来れば、その一日貴方は幸せを感じられるでしょう。そしてまた次の観察会にも出かけてゆこうとカづけられるに違いありません。



アカイカタケ
(大阪府豊能町高代寺山、2009年7月28日)

■連絡先

代表者 澤山輝彦
〒666-0122 兵庫県川西市東多田1-5-26 恵須川方

TEL : 072-793-1298

■ホームページ <http://kawanishi.iinaa.net>

■主な活動地名

川西市とその周辺

自生地の保護と増殖の手法の習熟を通して希少植物を知る。

ひとはく連携活動グループ希少植物研究会

自然に自生する山野草は自然環境の変化により少なくなってきました。三田に自生する白花のカザグルマや、ため池に自生するサギソウなども地道な保護活動や秘密にしておくことにより何とか生きながらえています。

私たち、ひとはく連携活動グループ「希少植物研究会」は、これらの希少山野草を中心に、増殖（実生増殖、挿し木・接ぎ木増殖、バイオ増殖、シダの孢子播きなど）のスキルを磨き、ひとはくのセミナーにおいてそのスキルを地域の方々へ伝授しています。



挿し木の実習（ひとはく）

この事は希少種のカザグルマやサギソウなどを挿し木やタネ、バイオから育てることが容易となり、自然に咲いている個体へは手をつけずに、これらの花を楽しみたいという方々に、1個体を確保する事の難しさ、自生地保護の啓蒙などを含めて伝授でき、なおかつ自分で一から育てた希少種

を大事に育て、欲しい方がいたら増殖の方法を教え、自然のものへは手をつけないようにとの啓蒙の輪をひろげることが出来ると考えています。

増殖活動以外には、保護されている自生地、例えば篠山のセツブンソウなどの観察会を早春に行います、早くて3年で咲くことを体験して頂きます。またこのような場所では地元の皆さんの手厚い保護活動が基本としてあり、このことの大切さも啓蒙しています。地元の人々とは時にはいろいろな問題についてざっくばらんに意見交換し、保護、増殖活動などで手助けできれば可能な限りお手伝いすることなども話しています。

サギソウのバイオ実習については、以前ひとはくにおられた永吉先生が所属するキリンビールのピオトップ研究室で毎年、先生のご指導を戴きバイオ実習を行っています。



サギソウのバイオ実習



自生地のセツブンソウ〈左〉
サギソウ〈中〉
挿し木から育てたカザグルマ〈右〉

自然の植物は昔から日常生活に何らかのかかわりを持ち、食品、薬品、染物など利用されて来ました。春には万博公園、秋には箕面公園での植物観察会を行い、生活とのかかわりを中心とした説

明を行っています。また秋には高山植物の宝庫、伊吹山のトリカブト、サラシナショウマ、テンニンソウなどの観察会も行っています。深田公園の植物調査も年に2回行っています。



クリンソウ自生地観察会
（篠山）



ひとはくフェスでのコケダマ作り

■連絡先

代表者 伊東吉夫
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘2-24-10

■ E-Mail : itohke@d1.dion.ne.jp

TEL : 079-562-6956
FAX : 079-562-6956

■主な活動地名

兵庫県三田市、篠山市などの希少植物保護自生地での観察
ひとはくでのセミナー活動（希少種の実生増殖、挿し木・接ぎ木セミナー）
箕面公園、万博公園での植物観察会

地元、須磨の本当の自然を受け継いでゆこう!

北須磨自然観察クラブ

旧武庫離宮の自然環境を受けつぐ、北須磨小学校の裏山やその校区内では、身近で豊かな自然に親しむことができます。神戸市の都市部に位置するにもかかわらず、このような活動が出来ることは、とても恵まれていることだと思います。

平成17年の夏、ご父母様から“北須磨小でカブトムシの飼い方を教えてもらえないか?”とお話をいただきました。北須磨小学校は私の母校でもあり、また校長先生にもお勤めいただいたこともあり、昆虫クラブとして平成17年10月に発足致しました。

カブトムシを飼うなら、みんなで、少なくなった須磨産のカブトムシの復活を目指そうという大きな目標ができました。また裏山での生き物調査などでは兵庫県レッドデータブック種の貴重な生き物も見つかり、校区内の生物調査をして記録を残そうという活動も加わりました。また、2010年度より、地元ではめっきり少なくなってしまった在来カメ類の保護、飼育繁殖も活動に加えしました。



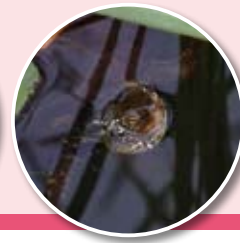
須磨の裏山での活動。カブトムシの幼虫マットを現地の材料で作っています。

最近、身近な生き物の住む環境では大変なことが起こっています。今まで生息していた生き物の生息域に人間が持ち込んだものが新しく入り込み、大繁殖を繰り返し、今までいた在来の生物が、ほとんど見られなくなってしまうようなことが起っています。これは“大きな自然の破壊”です。

須磨寺の堂谷池だけを例にとってみても、あれだけいたオイカワやメダカ、モロコ類は一匹も姿がありません。ハゼ類やヌマエビ類も風前のともし火です。かわりに在来種を捕食する、北米産のブルーギルやブラックバスの数には目を覆いたくなります。南米産の肉食魚、ガーパイク類やエンゼルフィッシュも確認しました。またカメ類も北・中米産のアカミミガメばかりになり、今までいたクサガメやイシガメは、もうほとんどいません。ほんの2~30年でこのようになってしまいました。このような生き物たちは、釣ることだけを目的としたゲームフィッシングの魚類と、後は、ほとんどが飼うことに飽きて捨てられたペットたちです。



すべてが現地調達のカブトムシピオトープです



須磨産のカブトムシ。産卵場所を作ることによって、多くの個体が自然発生しています(左)
 須磨寺堂谷池のクサガメ。イシガメは一頭も確認できませんでした。最優先種は予想通りミシシッピアカミミガメでした(中)
 裏山の照葉樹林にいるニホンヒキガエル。林縁には産卵のための安定した水場が必要だと思います(右)

昨今、生きた外国産の昆虫がペットとして大量に輸入されるようになりました。おそらくこの先、数十年で、須磨の裏山にも手に余ったペット昆虫類が放たれ、堂谷池と同じ道を歩むのではとされます。サイズの大きなものや、より旺盛な繁殖力を持つ外国産の昆虫類に在来種の昆虫たちの生息域が奪われる可能性が大きくなります。また、外国産の昆虫に付いている未知のウイルスのために、在来種が大きな打撃を受ける危険性も指摘されています。

須磨の本来の自然の姿を守るためにも、絶対に“ペットを地元の裏山や水辺に放さない”ようにしていただきたいと思っています。

クラブ員が、長い時間のかかる在来種の繁殖や地元の調査を通して、本来の須磨の自然や環境についての知識を新たにして、郷土の自然を大切に思う気持ちが芽生えれば、素晴らしいことだと思っています。



須磨水族園、和亀保護の会のご指導で、地元、堂谷池にてカメ類の調査

須磨の裏山にて昆虫採集



“カメさん池”内の須磨寺堂谷池産のクサガメ♀。産卵を期待しています。

2010春、在来カメ類繁殖のために、みんなで“カメさん池”を作りました



みんなで作業しました



完成!

■連絡先

代表者 山本勝也

〒654-0071 兵庫県神戸市須磨区須磨寺町2丁目1-1

■ホームページ [http:// kitajikan.exblog.jp](http://kitajikan.exblog.jp)

■E-Mail : kansatsu_club@yahoo.co.jp

TEL : 090-4644-6435

FAX : 078-731-1066

■主な活動地名

神戸市須磨区旧市街地地域

自然大好き、子ども大好き、みんなをつなぐ対話と交流

NPO法人 キッピーフレンズ

私たちは、兵庫県立有馬富士公園内にある三田市有馬富士自然学習センターの指定管理者として、今年4年目を迎えました。学習センターの展示と来館者をつなぐ展示交流員としてスタートした私たちは、人と人、人と自然の対話と交流をテーマとしています。館内ガイドで三田の自然を来館者に伝えるにとどまらず、様々なワークショップを通して多様な自然の大切さ、楽しさを伝える活動を行ってきました。

今特に力を入れているのは、小・中学生に向けた自然環境体験学習です。この3年間で、のべ90余りの小・中学校の環境学習を受け入れました。有馬富士公園を学習の場として、四季折々の自然を、体験を通して楽しみながら学んでもらうプログラムを提供しています。主な内容は、森林教室、水辺の生き物観察、オリエンテーリング、自然素材のクラフト、ネイチャービンゴなどです。里山



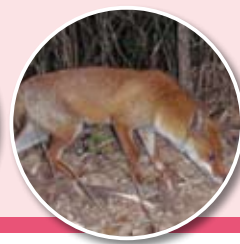
三田の水辺の生き物しらべ



里山のおそうじ体験は充実感いっぱい

と人の暮らしのつながりを知ってもらい、自然を守るために人ができることの活動として、里山管理体験（里山のおそうじ）も行っています。どのプログラムも、人と自然の共存共生や生物の多様性、さらに外来種の問題などを考えながら組み立てるように心掛けています。小学生に少し難しいですが、イノシシに荒らされた芝生をみて「どうしてかな？」と考えてもらったり、捕ったザリガニを飼うってどういうことか考えてもらうことも、その一つなのかなと思っています。

先日、環境学習に来て稲わらで縄をなう体験を実施した小学校がありました。少人数でしたが全員がうまくでき、一部の子が残った稲わらを持ち帰りました。数日後先生から、その子どもが家に帰っておじいちゃんにその日の縄ないの話をし、家族全員で子どもに教えてもらったということでした。体験が楽しかったから家族にも話したい、



カスミサンショウウオ〈左〉
ギフチョウ〈中〉
ホンドギツネ〈右〉

家でもやってみようと思ったのでしょうか。キッピーフレンズは、人と人との対話と交流も大切にしています。このように私たちの活動が家族との交流にまでに発展することこそ、私たちの願いです。

環境学習を行っている時、児童の顔が生き生きしてきます。初めてさわった、初めて見つけた、初めて知ったというわくわくした顔、少し驚いた顔、匂いや肌触りなど、一人ひとり違うんだ、違っていていいんだということに気づいていく顔は、見ていて感動します。それがまた、私たちの力になっています。

自然には、そんなすごい力があるんだとしみじみ思います。



楽しみながらバッタの学習



五感を使って自然を感じる

三田市有馬富士自然学習センターの北側のデッキから見る有馬富士の雄姿をお勧めします。ふもとには茅葺き民家、棚田、そして福島大池と、里山の懐かしい風景を一望できます。春は芽吹いた若葉、初夏には新緑の緑、秋には錦の山となり、冬は枯木立の姿。四季折々変わっていく美しい姿を、ぜひ見に来てください。11月頃からやって来る渡り鳥もかわいいですよ。



里山の暮らし体験（縄ない）

■連絡先

代表者 一樹洋彦

〒669-1313 兵庫県三田市福島1091-2

(三田市有馬富士自然学習センター)

■ホームページ <http://www.kippy-f.sakura.ne.jp/toppage.html>

■E-Mail : kippy-friends@chorus.ocn.ne.jp

TEL : 079-569-7727

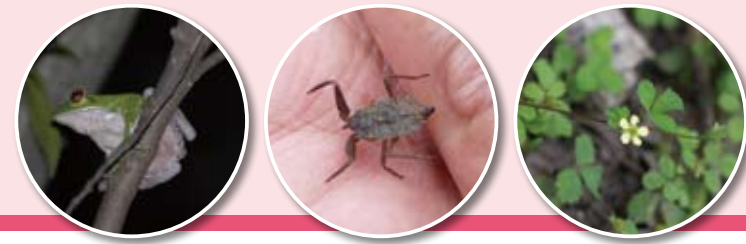
FAX : 079-569-7737

■主な活動地名

兵庫県立有馬富士公園

市民・事業者・行政のパートナーシップによる都市近郊緑地の保全と環境教育

NPO法人 こども環境活動支援協会 LEAF



モリアオガエル (左)
ヒメタイコウチ (中)
ヒメヘビイチゴ (右)

六甲山東端部「甲山グリーンエリア」の保全

甲山は西宮の中間部に位置し、1,500~1,200万年前の噴火によって誕生しました。標高309 mの高さにちなんで309(みわく)の山と呼ばれ阪神間の市民に親しまれています。同エリアには六甲山東端部に位置するアカマツ・コナラ林である社家郷山、都市近郊山地に残存する鷲林寺地区の田畑、市立甲山自然環境センター、県立甲山森林公園、歴史のある寺院、希少な動植物が生息する西宮市指定文化財の甲山湿原、ホタルが飛び交う仁川など良好な自然や景観、歴史文化が残されており、近隣市からも多くの人が自然を求めて訪れます。

六甲山東端部に広がるこの都市近郊の緑地一帯の保全が、生物多様性保全の観点から見ても重要であるということから、LEAFではこのエリアを「甲山グリーンエリア」と総称し、市民・事業者・行政のパートナーシップによる保全を進めるとともに、環境教育や野外活動の場として活用できるように以下の取組みを行っています。



仁川で川遊び

市民参加による甲山湿原（生物保護地区）の保全活動

1975年12月1日に生物保護地区に指定された西宮市甲山町及び仁川町の湿原。阪神間の都市近郊にあり、六甲山系の中間湿原を代表する貴重な湿原です。

LEAFは、甲山自然環境センターの指定管理者として湿原周辺の樹木の伐採や落ち葉かきなどを市民参画で行っています。同センターは、湿原保全活動を担う人材育成としてボランティアセミナーを開催するなど、環境学習都市・西宮の山の活動拠点となっています。甲山湿原には、モウセンゴケやミミカキグサ、ヒメタイコウチなど様々な動植物が生息しています。

また、甲山の北側を流れる仁川ではゲンジホタルも生息し、幅広い市民の水辺の学習フィールドとなっています。

甲山農地 地元農家・事業者・大学の連携による都市近郊農地の保全

六甲山系東端部と甲山にはさまれた鷲林寺地域。都市近郊農地であるこの地域は地元農家の高



森林湿原ボランティア育成セミナーの一場面。湿原を観察。

モリアオガエル …… 森に住み、池などの水面にかかる木の枝にメレンゲ状の卵を産み付ける、レッドデータブックBランクのカエルです。甲山自然環境センターで毎年見られ、野外解説板パネルなども設置し生態を紹介しています。
ヒメタイコウチ …… 兵庫県西宮市甲山湿原で初めて存在が確認されたレッドデータブックAランクの水生昆虫です。
ヒメヘビイチゴ …… 社家郷山で確認されたレッドデータブックAランクの植物です。保全整備後に社家郷山で確認された絶滅危惧種。

齢化も進み土地転用のケースも少なくありません。LEAFでは、地元農家や食品関連企業等との協働で、農地保全活動として市民を対象に「甲山農業塾」を開講しています。食物を育てる田畑がいかに多様な生物がすみ環環境になっているかを、農体験や食育を通じて学んでいただき、様々な世代が交流できる農地の新しい形を目指しています。



甲山農業塾の活動風景

コープの森・社家郷山 都市近郊学習の森づくり活動

LEAFでは、コープこうべが兵庫県の「企業の森づくり」制度にあわせて取り組んでいる社家郷山の森林整備活動をサポートしています。

社家郷山の基礎調査では兵庫県のレッドデータブックにのる希少種も発見。

市民（コープ組合員）親子を対象に山とくらしのつながりを学ぶ学習プログラムづくりや、10年間の取組みを通じて、学習と整備が主体的にまわり、「落葉高木林からなる多様な生物を育む豊かな学習の森づくり」を目指します。

甲山309(みわく)プロジェクト

甲山の標高309mにちなんだこのプロジェクトでは、甲山周辺の多様な自然をより多くの方に知っていただくこと、スポンサー企業・団体等に支援を頂き、10基の野外解説板パネルを設置しました。①~⑩番までの設置箇所を記したマップを甲山自然環境センターで配布しています。



甲山グリーンエリア



■連絡先

代表者 小澤 紀美子
〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園1丁目8-1

TEL : 0798-69-1185
FAX : 0798-69-1186

■ホームページ <http://leaf.or.jp>

■E-Mail : kodomo@leaf.or.jp

■主な活動地名

- 西宮市甲山周辺地域等を中心に活動
- ・西宮市甲子園浜香榎園浜
- ・西宮市仁川夙川等河川



参加者に除伐の方法をレクチャー

宝塚市内で活動する 「緑の応援団」

櫻守の会

桜の園は1999年3月、兵庫県里山林整備事業完了により、1999年4月17日に開園した宝塚市の里山公園・桜の園「亦楽山荘」です。'98年、'99年3月「亦楽山荘」で宝塚市民が植樹したサクラの苗木の育成を目的に、緑の応援団として櫻守の会をオープン日に設立し、現在は月2回の里山整備活動を続けています。

JR 福知山線、JR 宝塚駅から3つ目の JR 武田尾駅下車、武庫川左岸の JR 廃線跡を下ると、2つ



目のトンネルを抜けた所に桜の園「亦楽山荘」の登り口があります。JR 廃線跡は近畿圏や他の市民にも風光明媚なハイキングコースとして知られており、大勢の方々が癒しを求め訪れ、新緑、サクラの花見に、夏の森林浴や秋の紅葉狩りと四季を通じて楽しめる素晴らしい場所です。

「亦楽山荘」は、故笹部新太郎氏（1887～1978）が1912年に兄から譲られた里山で、サクラの品種保存や接ぎ木の研究場所として使用された演習林で、当時は全国から集められたヤマザクラやサトザクラが30種、5,000本以上も植えられていましたが、なくなられた後地元の方で整備を続けておられましたが、その後長らく放置され荒れ放題の状態でした。遺族からのご寄付と、宝塚市が購入したことで、現在は市が里山公園として管理しております。サクラに一生を捧げられた笹部新太郎氏は、大阪造幣局の通り抜け桜、西宮市夙川、甲山周辺桜の管理指導などの多くの事業



ササバザクラ

を手掛けられましたが、1960年（昭和35年）に行われた岐阜県御母衣ダム建設で水没する荘川桜（エドヒガン、樹齢400年）の移植の成功は、世界の植樹史上に残る大事業でした。現在もダムを見下ろす高台にあり、大勢の観光客や桜愛好者が訪れています。

氏の名前がつけられたササバザクラは、神戸市東灘区のご自宅に生えた実生のサクラで、カスミザクラとオオシマザクラ系のサトクラの交配種で、このサクラは枯れ、現在はありません。

ササバザクラの命名は笹部氏の（1978年）死後、1985年元東京農大教授：林弥栄博士の研究により、新種として命名された。

会の活動地が市内に後3箇所あり、中学2年生の「トライやる・ウィーク」、小学3年生の環境体験学習行事、会主催の親子で森づくり体験活動等で学校教育等の支援をしています。



「トライやる・ウィーク」



「トライやる・ウィーク」



小学3年自然環境体験学習

小学3年自然環境体験学習



親子で森づくり体験活動



親子で森づくり体験活動

■連絡先

代表者 会長 長岡一夫
〒665-0041 兵庫県宝塚市青葉台2-4-22 伊藤方

TEL : 0797-74-4724
FAX : 0797-74-4724

■ホームページ <http://www.sakuramori.net>

■E-Mail : rx01456@nifty.com

■主な活動地名

桜の園「亦楽山荘」
山手台南公園
ゆずり葉の森 青葉台

一緒に里山を楽しみましょう!

里山レンジャー

里山レンジャー（通称“里レン”）は、その名前の通り「里山を守ろう!」をテーマに集まった非営利市民活動団体です。三田市の郊外に位置する豊かな自然環境を舞台として、里地・里山の再生・保全・維持・管理を実践すると同時に一般市民に向けての環境学習に関連した各種ワークショップの企画運営を主な目的として設立しました。特に、都市公園である兵庫県立有馬富士公園内において公園事務所と協力した普及啓蒙活動や体験学習に重点を置いています。実施している内容は以下のとおりです。

- 里地、里山の再生、維持、管理活動（主として兵庫県立有馬富士公園、環境学習エリア）
 廃棄水田の再生、放棄された里山における除間伐や植樹などの再生、各種ビオトープ作りなど



田んぼでの観察会の様子です



田植えを行い、その後に生き物観察します

- 自然観察会（主として兵庫県立有馬富士公園・夢プログラム）
 春夏秋冬における自然観察会及び水辺の生き物の観察会、夜の生き物観察会など
- 生き物の生息調査：
 ヒメカンアオイの生息調査、ギフチョウの生息調査、カスミサンショウウオの生息調査他主として昆虫類の生息調査
- 棚田の再生、維持、管理活動（兵庫県立有馬富士公園棚田エリア）
 主として古代米作り（赤米、黒紫米他）。このエリアにおいては、一部通年灌水におけるお米作りを実施
- 各団体などへの支援事業
 兵庫県内における小学3年生環境体験事業、三



再生した放棄水田にやってきたカスミサンショウウオ

田市緑の少年団、小学校の学年活動や家庭学級などへの支援活動。主として環境にまつわる体験会や自然観察会などを実施

- 企画展の実施
 三田市立有馬富士自然学習絵センターにおける展示

生物と人が関わりを持つ最も身近な自然である里山との関係を明らかにしつつ、子供たちが大人とともに楽しみながら取り組んでいけるような、さまざまな活動を展開しています。活動に参加することで、子供たちが環境について感心を高め、自ら考え、積極的に係わりを持つようになることを目指しています。



参加者と一緒にカスミサンショウウオの生息地づくりを行っています



放棄水田を活用して小さな池をつくりました



放棄水田に植樹しました

■連絡先

代表者 服部泰樹
 〒669-1506 兵庫県三田市志手原1321-9

TEL : 079-553-3531
 FAX : 079-553-3531

■主な活動地名

三田市 有馬富士公園

■ E-Mail : a-satoyama2004-2008@ezweb.ne.jp

「学びの原点は遊び！」 芦屋市を拠点に環境教育を実践

NPO法人 さんぴいす

NPO 法人さんぴいすでは、子どもの健全育成に関わる教育事業を推進しています。「教える」教育ではなく、「自ら考え、自ら問題解決をする子どもを支援する」教育の実践を目指しています。この目的を実践へと移すために、地域の自然環境に触れることで、体験を通じて興味・関心を持つことを重視し、地域の団体や博物館と協働することで、環境保全や環境学習の活動も実施しています。今年からは、年間を通じた環境体験のプログラムを作成して、芦屋レンジャープロジェクト（愛称：アシレンジャー）として、親子で芦屋の身近で多様な自然を遊びながら楽しめるプロ

ラムづくりを展開しています。芦屋市は、都会に位置しながらも、その中に山（六甲山）、川（芦屋川・宮川など）、海（大阪湾）といった自然環境が全て揃っている恵まれた場所と言えます。市内の環境を活用した市民の手による芦屋式のESD（Education for Sustainable Development）の実践を目的としています。こうした環境教育と並行して、学校教職員向けの研修やカリキュラムの開発、行政による環境教育プログラムの提案・運営支援、子育て支援など、教育に関する各種活動を進めています。



芦屋川上流での観察会の様子です

■連絡先

代表者 河口 紅
〒669-1546 兵庫県芦屋市大樹町7-2-301

■ホームページ <http://sanps.com>

■E-Mail : info@sanps.com



モクスガニの観察会では、
たくさんの大物が見つかります



ロープを使ってハンモックづくりに挑戦



六甲山にて昆虫採集を行いました

芦屋市のいろいろな場所で、環境体験のプログラムを開催しています。芦屋市の自然の特徴は、なんと言っても「芦屋川」。大阪湾からモクスガニやアユ、ウナギ、さらにはサツキマスものぼってきます。水も冷たくてきれいで、町のなかでも清流体験できます。ぜひ、わたしたちの観察会や講習会に参加してみてください。



夜のモクスガニ観察会の様子

■主な活動地名

芦屋市

親子で感じる「命のつながり」

NPO法人 さんぽくらぶ

NPO 法人さんぽくらぶは、人と自然の博物館の連携活動グループで、幼い頃からの自然体験を推進している。里山に囲まれた田園地帯にある神戸市北区道場町を拠点に、2歳から小学生まで4つのグループに分かれ（表参照）、会員約60名、スタッフ11名で活動している。

隊区分	対象	年間回数
ありんこ隊	2歳児と保護者	20回(月2回)
もぐら隊	3歳児	30回(月3回)
かっぱ隊	4・5歳児と保護者	7回
てんぐ隊	小学生	7回

さんぽくらぶの構成

生き物との出会いがいっぱい！

「あっ、てんとうむし！」と、子どもたちはそれぞれ見つけて手にとる。ダンゴムシ、ミミズ、カエル・・・次々と見つけては、つかんでみる。そして、タンポポを摘み、ムラサキツメクサの花びらをなめ、カラスノエンドウの豆を開けてみる。空には、ヒバリがさえずり、田んぼではトノサマガエルの卵を発見して感激！おにぎり弁当の後は、畑で苺を食べる。春のさんぽの一日は、生き物との出会いがいっぱいだ。

月2-3回のありんこ隊（2歳児と保護者）ともぐら隊（3歳児）の活動（図参照）は、野山で遊んだり、泥んこになって野菜を作って食べたり、四季折々の変化を身体で感じている。時には

田植えや稲刈りに遭遇し、時を忘れて見つめることもある。2・3歳児の活動は、五感を使って、とにかく楽しむことを大切にしている。



カエル、大好き！

かっぱ隊（4・5歳児と保護者）・てんぐ隊（小学生）は、ハイキングをしたり、四季、みんなで摘み菜をして、料理を楽しんでいる。また夏は、京都の美山の川で泳いだり、冬は野宿のチャレンジキャンプをしている。



ありんこ隊・もぐら隊 活動の概要



モリアオガエル〈左〉
ウメバチソウ〈中〉
キリギリス〈右〉

命をつなげる子育てを一緒に楽しもう

初夏に大豆を植え、晩秋に収穫し、冬にみんなでさやから豆を出す。そして、大豆を炊いて、親子で一緒に味噌を作る。共同作業の周りで、子どもたちは、楽しくのびのび遊んでいる。「ああ、こうやって女の人は、大昔から暮らしを繋いできたのかなあ。」とふと思うと、うれしくなる。核家族の子育ては、母親一人の責任になりがちで孤独だ。でも本来子育ては、仲間育て、育ちあう喜びを共感できるものだろう。

子育ては、親から子へ、子から孫へと、命のつながりを実感できる最たるものである。だが、現代優先される、合理性・効率・お金優先・競争な

どの価値感からは外れてしまう。でもだからこそ、命のつながりを実感できる子育ての楽しさを私たちは分かち合いたい。里や里山で多様な生き物たちと



畑でとれたて、おいしい～！

の出会いを楽しみつつ、農ある暮らしを実体験していきたいと思っている。あなたも一緒に楽しみませんか。

イナゴって、おいしい！

私たちは毎年秋に、2・3歳児の親子で、イナゴの佃煮を食べている。「子供たちが自分でイナゴをとって、自分で料理して食べる」体験を通して、私たちは、生き物の命を頂いて毎日生きているということ、理屈ではなく体感できるからだ。大人も夢中になってイナゴをとる。そして、ゆでて赤くなったイナゴの翅と後ろ足のギザギザした部分を子供たちがちぎる。油で揚げ、蜂蜜と醤油で煮詰める。先入観のない子供たちは、「おいしい！」といって、パクパクと食べる。イナゴは、実は昔から食用である。



自分でとって、食べてみよう！

■連絡先

代表者 西浦睦子
〒651-1505 兵庫県神戸市北区道場町日下部127

■E-Mail : west127@gaia.eonet.ne.jp

■主な活動地名

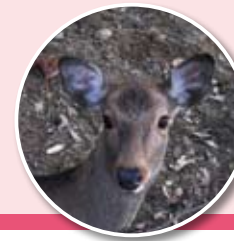
神戸市北区道場町

TEL : 078-951-2403

FAX : 078-951-2403

環境体験学習の支援 各種講座の企画運営と講師派遣

自然体験教育研究所 the Institute of Field Science Education



里山の芝刈りや畑の草刈りの手伝いをしたら、人間にえらい怒られるようになって〈左〉
兵庫県RDB:Aランクの植物。直径10cmもある大きな“風車”のような花。里山とともに生きてきた植物〈中〉
兵庫県RDB:Cランクの昆虫。森の妖精ともいえる謎多きホタル。一緒に探しませんか〈右〉

こんな会です

長年小中高校大学などで自然科学教育・理科教育に携わってきた者で組織している任意団体です。略称は「ifse」(イフセ)です。

自然科学教育、環境教育、自然体験教育に関する研究及び、教育資料の製作事業、指導者の派遣事業等を行ない、自然体験教育の普及と向上に貢献することを目的とします。



環境体験学習を支援するメンバー

環境学習の支援をしています

環境体験学習は命の営みやつながり、命の大切さを学ぶため自然にふれあう体験型の環境学習を行う教育活動であり、生物多様性を学ぶ基礎になります。ifseには生態系自然に関するプログラムを実施する学校からの支援要請が多数寄せられ、達人たちが多くの学校の支援活動をしています。

インタープリテーションの達人たちがいます

メンバーは環境省自然公園指導員、兵庫県自察指導員、財団法人自然保護協会自然観察指導員等インタープリテーション(自然解説)の第一人者が勢ぞろい

豊富な出前セミナー

●植物や昆虫を中心とした自然観察 ●昆虫を中心とした自然観察・環境学習 ●植物や昆虫の観

察と標本作り ●プラスチック封入標本作り ●草木遊び、草木染めなど ●野鳥の観察と巣箱づくり ●水生生物による水質調査 ●野生動物(シカやタヌキやキツネなど)の歯や骨の観察 ●地球温暖化の観察実験 ●その他各種プログラムを用意しています。

メンバーを募集中

教職経験者で、一緒にやろうと思われる方は是非とも連絡ください。

各種相談を歓迎します

生涯学習講座、教員研修講座、地域学講座など各種セミナーの開催を考えておられる方、お問い合わせは事務局へ。



インタープリタ養成講座で講義するメンバー

生物多様性の未来を背負う子どもたち

危機的な生物多様性を保全・再生する原動力になるのは、未来をになう子どもたちです。



目を輝かせて自然環境を学ぶ子どもたち

こんなことをしています

- (1)多様性生物学及び環境教育に関する研究
- (2)各種社会教育団体、社会教育施設及び小中高校などとの連携事業及び講師派遣事業
- (3)自然体験教育のためのリーダー養成講座の企画・開催など
- (4)各種環境影響評価に関する調査研究など
- (5)自然体験教育に関する教材・教具の開発並びに出版と普及活動
- (6)その他、自然体験教育に関する事業

■連絡先

代表者 足立 勲
〒665-0842 兵庫県宝塚市川面3-7-19

■E-Mail : ifse@mbr.nifty.com

TEL : 0797-84-1208
FAX : 0797-84-1208

■主な活動地名

兵庫県全域、要請があれば他府県も

尼崎市園田の環境資源を継承し皆に伝える市民有志です

自然と文化の森協会

自然と文化の森協会は、尼崎市が園田地域の環境資源を継承し伝えるため策定した「自然と文化の森構想」を担う中核となる、市民有志による団体です。

尼崎市園田地域には猪名川と藻川が流れています。猪名川の旧河道に残る河畔林「猪名川自然林」の保全是、緑部会のおもな活動テーマです。猪名川自然林は兵庫県レッドデータブックで貴重な群落としてリストアップされている、ムクノキエノキ林ですが、常緑樹が繁茂して本来の姿を失いつつあります。この樹林で毎木調査を行い、「タマムシのとぶ森づくり」をテーマに適切な管理を実践しています。調査や管理は、人と自然の博物館の服部先生や環境学園専門学校の石丸先生の指導を受け、公募による「自然林サポータークラブ」の方と共に、私たち自身の手で行っています。

猪名川・藻川のもう一つの環境資源は、もちろん水の中の生きものです。藻川には、アユが上

がってきます。汽水域の魚やカニ、エビなども多く、都市の中を流れる身近な川なのに、生きものの豊かさには驚かされます。水辺部会ではこの驚きを、市民のみなさんに伝えるべく活動しています。水の中に入って魚捕りしたり、河川敷でバッタ捕りしたり、魚釣りをして河原で唐揚げにして食べたり、とにかく生の自然に実際に触れて感じてもらうことが主眼です。メダカが住む農業水路の生きもの観察も重要なテーマです。

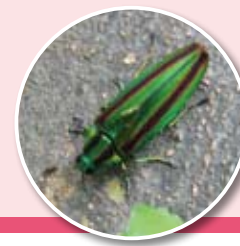
工都として繁栄した尼崎市ですが、園田地域には農地が多く残っています。農業部会は、園田に古くから伝わる「田能の里芋」づくりを中心に活動しています。田能の里芋はむいてもかゆくならないという特徴があり、きめが細かく甘みがある、誰もが間違いなくおいしいという芋です。公募の市民の方数十人とともに一年間農作業をし、収穫の喜びを皆で楽しめます。地域の農産物を軸に、人と自然が共存する農地という場をいつまでも継承したいと思っています。



猪名川自然林タマムシの飛ぶ森づくり



田能の里芋作り収穫。住宅街の農地が特徴。



森づくりのシンボルタマムシ（左）
猪名川・藻川を代表するアユ（中）
むいてもかゆくない、田能の里芋（右）

地域の環境資源を支えているのは、その地の歴史と文化です。例えば園田駅に近い白井神社には、歯の神様としてナマズが祀られています。戸之内地区には、行基さんを助けたというコイを大事にする文化があります。歴史文化部会では、ナマズの山車を手作りして祭りの場で皆で引き回したり、歴史・文化資源を知るためのウォッチングを行ったり、他の団体と連携して歴史文化をまとめる冊子作りに携わったりしています。

そして環境資源を継承し伝えるのに大切なのは、人や団体同士のつながりです。交流部会は各部会の活動を横断的に扱い、そのつながりを強め

るため発信します。例えば、「里芋収穫祭」では、農業部会で収穫した里芋をのっぺい汁にして地域の人に振る舞い、農地の魅力を発信します。カヌーやいかだなどの乗船体験ができる「水辺まつり」は、当協会をはじめ地域や流域の団体が実行委員となって実施し、3000人を超す人に川の魅力を体感してもらっています。



水辺で楽しみ隊。大人も子どもも魚捕り。

私たちの活動は、いろいろな分野に渡っているのが特徴で、これを読まれているみなさんの興味の対象が必ず含まれていると思います。また、子どもばかりのサブ組織として「キッズクラブ」もあります。兵庫県の環境体験学習のお手伝いをはじめとする環境学習にも力を入れています。ぜひ私たちと一緒に活動しましょう！まずは、気楽なイベントへの参加から。みなさんからの連絡をお待ちしています！！



キッズクラブ。河川敷でバッタ捕り大会。



水辺まつりでナマズの山車をみんなで引く

■連絡先

代表者 会長：内田大造 事務局長：福本吉雄
〒661-0982 兵庫県尼崎市食満7-26-4

TEL : 090-4030-3833

■ホームページ <http://www.morikyokai.sakura.ne.jp/>

■E-Mail：ホームページ内に連絡フォームあり

■主な活動地名

尼崎市 園田地域

憩いの森、自然体験学習ができる生物多様性豊かな森へ

森林ボランティア 菊炭友の会



エドヒガンの花は慎まじやかに咲いている。〈左〉
子供の憧れカブトムシ〈中〉
昆虫の中で一番目につくタマムシ〈右〉

野生の桜・エドヒガンは栽培種のソメイヨシノと異なり気温に一齐に反応することなく、早咲きと遅咲きの樹に10日以上も時間差があり、白っぽい花、濃いピンクの花など個性の豊かさで楽しませてくれる。全国では樹齢1000年を超える樹もあり、長寿の樹であるためか、日本の名物桜の6割がエドヒガン系だそうだ。それが兵庫県ではレッドデータブックでCにランクされている。

菊炭友の会は黒川地区35名の共有の山の北端約



蔓に絡まれたエドヒガン「長老」

5haを、全国でも珍しくエドヒガンが群生している為「黒川・桜の森」と名付け、地元と整備協定を結び活動している。

この5haの中に炭焼きの窯跡が三つもあり、昭和20年代までは薪炭の生産や落葉を集めて堆肥を作るなど、人の生活に密着した山であり、松茸も沢山採れたそうだ。

電気・ガスが普及し経済的価値をなくした里山は、放置されて半世紀に及ぶ。「黒川・桜の森」の荒れ方も尋常ではなかった。

遠目には元気に花を咲かせているように見える樹が森に入って見ると、まるで大蛇のごとき蔓に絡まれ締め付けられ息も絶え絶えといった状況であった。

エドヒガンの救出を兼ねて2006年8月に森の整備を始めて4年になる。背丈3mもの笹藪を刈った跡に55種もの植物が芽生えた。蔓も切り、枯れ落ちて危険も少なくなり、自然体験学習の森として機能し始めた。



桜の森のシンボルツリー「黒川・微笑み桜」

大人でさえ足の踏み入れようもなかった森に体験学習で来る子供の姿を見ると、何だか誇らしい気持ちになる。

黒川はクヌギを原木にした菊炭の生産地として古くから全国的に有名であり、今も茶道になくはならぬ炭として焼き続けられている。そのためクヌギ山では生きた里山の証である輪伐跡のある景観が見られる。

菊炭友の会は炭焼き体験など菊炭の啓蒙活動やクヌギの保全にも取り組んでいる。小規模のクヌギ林が放置状態となり貴重な台場クヌギが笹に埋もれたり蔓に絡まれたりしている。主として、そんなクヌギで炭を焼き、大径木化したクヌギを伐採、萌芽更新を促進するなどクヌギ林の若返りを図っている。

2005年3月に発足、現在会員38名。機器類も充実し省力化もかなり進んだ。炭と薪の販売で整備資金を賄えるよう努めている。日曜だけ参加の日曜会員も増えて来た。

「黒川・桜の森」にはクヌギやエノキがある。この二種類の樹に関わる昆虫は多い。エドヒガンの花は慎まじやかに咲いている。イカル、ウグイス、オオルリ、コジュケイ、ホトトギス、サンコウチョウなどが声を聞かせてくれる。
＜入会案内はブログをご覧ください。まずは見学をお勧めします。＞



毎年、1月～3月には炭を焼く



エドヒガン満開の桜の森



自然体験学習で訪れる小学校の児童

■連絡先

代表者 大門 宏
〒666-0111 兵庫県川西市大和東1-93-9

TEL : 072-794-8605
FAX : 072-794-8605

■ホームページ <http://kikuzumi.exblog.jp> <http://kikuzumi2.exblog.jp>

■E-Mail : hiro-3@nike.eonet.ne.jp

■主な活動地名

川西市 黒川・桜の森

自然を身近に感じ心とむ街づくりを目指す

宝塚エコネット



ショウジョウバカマ <左>
サギソウ <中>
モウセンゴケの花 <右>

松尾湿原

松尾湿原は、宝塚市立宝塚自然の家敷地内にあり、1978年に宝塚市の天然記念物に指定された貴重な生態系を持つ中間湿原です。湿原は長年放置されると草原から森林へと遷移するといわれていますが、松尾湿原も2004年までは、周りが暗い森となり、湿原も草原化が危ぶまれる状態になっておりました。

私たち宝塚エコネットは2005年に宝塚市に申し入れ、松尾湿原の再生、保全活動を開始しました。当初の私たちは全くの素人集団であったため、人博の服部教授、自然保護協会の足立先生にご指導を頂き、まずは、周辺斜面の常緑樹（ヒノキ、スギ、ソヨゴ、ヒサカキなど）の伐採に取り組みました。木を切るのも初めてという会員も多量中、毎月一回少しずつ伐採を続けた結果、今では周辺斜面はすっきりした里山の風景となり、湿原内の湧き水も回復し、日当たりもよくなり湿原



湿原周辺の樹木伐採

植物も増加が見られるようになりました。同時に、湿原内の腐葉土を増やさないために、草刈と冬場の落ち葉かきも徹底して行っています。

2007年からは、保全活動の成果を確認することを目的に植生調査を開始しました。

会員一同植物の名前すら知らないレベルでしたが、服部教授から紹介頂いた福井先生に現場講習を受けながら、楽しく調査を続けております。

現在、9種類の絶滅危惧種を含む31種類の湿原植物、合計で85種類の植物を確認しています。

毎年の調査結果を、植生調査報告書、花の写真集にまとめ、市内の図書館にも配布しています。

楽しく作業する結果が、美しい湿原植物の回復という目に見える効果につながっています。自然大好き、でも知識、体力が？という方々、是非、私たちの活動に参加してください。



植生調査風景。湿原の地図にどのような花がどの程度咲いているかを記載して植生マップを作成しています。



湿原の花観察会

ホタルの里「ピカピカランド」

ピカピカランドは、逆瀬川をホタルの飛び交う場所にしたいという、市民の要望に答えるため、平成4年に宝塚市、宝塚ライオンズ倶楽部、宝塚ゴルフ倶楽部の出資により、逆瀬川上流の内山緑地内に設置された、ホタルの飼育小屋です。

私たちは宝塚市に申し入れ、ここの管理を引き受けて、ホタルの飛翔数の増加に取組んでいます。



ピカピカランド (ホタルの飼育小屋)



湿原保全活動 笹類の刈取り作業

■連絡先

代表者 小川恭弘

〒665-0867 兵庫県宝塚市売布東の町 12-7

ぶらざこむ1 ボランティアセンター内

TEL : 0797-86-5001

FAX : 0797-83-2425

■ホームページ http://www.geocities.jp/econet_t

■主な活動地名

松尾湿原、

ホタルの里ピカピカランド

絶滅危惧生物の保全と環境体験学習の支援

宝塚市自然保護協会



里山再生のシンボル 春の女神ギフフチョウ(左)よみがえりつつある武庫川のカワラサイコ(中)北部里山の林縁に自生するカザグルマ(右)

こんな会です

生物調査を基礎としながら啓発・保全・再生活動など多方面の活動を行うことを目的とした市民団体として、1976(昭和51)年に発足し、30余年の歴史と伝統をもつ団体です。

地域の生物分布調査(植物、昆虫、野鳥等)、湿原等生態系調査・保全・再生活動、年数回の市民対象の自然観察会を実施、会報「宝塚の自然」の発行、自然観察資料「阪神の自然」出版・市内の全小中学校等へ寄贈しました。講師派遣など幅広い活動をしています。



湿原で里山再生について指導員が説明中

生き物調査をしませんか

市民の皆さんからの情報に基づいて、絶滅が危惧される生き物の調査などを行っています。皆さんの参加大歓迎です。

環境学習の支援をします

兵庫県教育委員会が推進する「環境体験事業」は、命の営みやつながり、命の大切さを学ぶため自然にふれあう体験型の環境学習を行う教育活動であり、当協会には生態系自然に関するプログラムを予定する学校からの支援要請が多数寄せられ、有資格者の会員を中心に、多くの学校の支援活動をしています。



環境学習支援メンバーが生物多様性を解説中

有資格者も大勢います

財日本自然保護協会「自然観察指導員」12名、財全国森林レクリエーション協会「森林インストラクター」1名、NPO 法人自然体験活動推進協議会「CONE インストラクター」1名、財日本ネイチャーゲーム協会「ネイチャーゲームリーダー」5名など。全員個性豊かで、わかりやすく、話がおもしろいです。

市民参加の観察会が面白い

早春の生き物観察会、ホテル観察の夕べ、武庫川のカワラサイコ観察会、里山湿原再生イベントなどは定例観察会ですが、随時にいろんな自然観察会を主催・共催しています。

図鑑も出版しています

自然観察用ポケット図鑑「阪神の自然」は大好評で、かくれたベストセラーです。この地方に生息する動植物109種類の写真と解説付きで山歩きのお供に、自主研究の手助けにもなります。お問い合わせは事務局へ。

入会はいつでも受け付けます

大人から子どもまで老若男女を問いませんので、ご入会を。会員になると各種参加費は無料です。お問い合わせは事務局へ。



発光するゲンジボタルに感動する子どもたち

里山・早春の女神ギフフチョウ

里山とともに生きてきた蝶、絶滅寸前です。ギフフチョウは里山再生のシンボルです。

再生するか 武庫川のカワラサイコ
ひと昔前、河川敷で普通に見られた植物。河川敷が様変わりした現在、智恵を出し合って再生し、生物多様性高揚の一端を担いませんか。みなさん一緒にしませんか。



生物多様性豊かな武田尾溪谷

兵庫県下でも有数の生物多様性の豊かな溪谷です。絶滅危惧植物が数十種も生息。



ミヤマアカネ
市街地に兵庫でも有数の生息地がある

■連絡先

代表者 会長 足立 勲 事務局長 森本敏一
〒665-0836 兵庫県宝塚市清荒神1丁目2-30-911

TEL : 0797-87-2267
FAX : 0797-87-2267

■ホームページ <http://naturezuka.com/>

■E-Mail : sumire@naturezuka.com

■主な活動地名

宝塚市を中心に北摂山地

ミヤマアカネリサーチプロジェクトのパイオニア

宝塚市立西山小学校



ミヤマアカネ (左)
ハグロトンボ (右)

【日本一美しい赤トンボ ミヤマアカネを追って】

(平成20年度兵庫県グリーンスクール表彰)
西山小学校では、総合的な学習の時間を活用し、平成16年度から毎年4年生が、兵庫県立人と自然の博物館主任研究員八木剛氏等と共に、兵庫県レッドデータCランクに位置づけられている「日本一美しい赤トンボ ミヤマアカネ」のリサーチプロジェクトに取り組んでいます。



日本一美しい赤トンボミヤマアカネ(オス)
羽の茶色い帯が特徴

【小さな研究者たちの探究】

子どもたちの調査によって、ミヤマアカネが季節によって移動をしていることがわかりました。また、捕獲したトンボの羽にIDナンバーを書いて、再び放すマーキング調査によって、ミヤマアカネの寿命や、逆瀬川からどんどこに飛んでいっているのかなど、今まで知られていなかったことがわかりました。



校区内でのミヤマアカネの分布図。
何回も調査結果をまとめ、比較して
考察を行う。

【フィールドは校区を流れる逆瀬川】

西山小学校のフィールドは、校区内を流れる逆瀬川です。学校から歩いて5分くらいのこの川では、初夏には蛍も飛び交います。

他の地域では数の少ないミヤマアカネがなぜかこの川ではたくさん生息します。



逆瀬川での調査風景

【地域・社会教育団体との連携で更なる広がり】

西山小学校に隣接する宝塚ゴルフ場では、人と自然の博物館・ミヤマアカネ生態研究会・地域コミュニティの協力のもと、毎年「みやまあかね祭り」が開催され、多くの親子連れが調査や自然観察を楽しんでいます。社会教育団体の参画でマーキング調査から多くの事実がわかりました。

「みやまあかね祭」は、毎年夏休みにかいさいされる。虫捕り・マーキング・投網体験など諸団体の協力のもと、自然に親しむ一日を過ごす。



ミヤマアカネは日本で一番美しい赤トンボです。西山小学校区の逆瀬川には、そのミヤマアカネがたくさんいます。

人と自然の博物館の八木剛先生、宝塚自然体験研究所の足立勲先生、ミヤマアカネ生態研究会のみなさんと一緒にミヤマアカネの調査をしていて、いろんなことに出会いました。

調査の中で、ミヤマアカネのことを知るためには、川的环境や天気など、周りの環境についても考えていく必要があることも学びました。

調査の結果からわかることをみんなで考えるのはとても面白いですよ！今まであまり知られていなかったこともあり、新しいことがわかった、わくわくします。

■連絡先

代表者 野近壽昭
〒665-0022 兵庫県宝塚市野上6-2-1

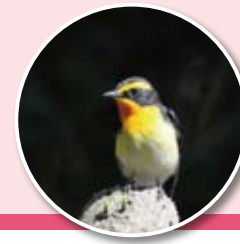
TEL : 0797-71-8451
FAX : 0797-71-1905

■主な活動地名

西山小学校区内
逆瀬川周辺

「自然を愛する心」と同好者の親睦を図り、併せて自然保護の輪を拡げて行くことを目的としています。

宝塚野鳥の会



渡り鳥。夏南方から渡ってきて日本各地で繁殖。

○探鳥会

毎月3回定例探鳥会を開催し、阪神間の探鳥地、里山、山林、公園、河川、海岸、池などで野鳥観察を行っています。参加者は毎回20名～30名でアットホームな雰囲気です。誰でも気軽に参加できます。季節や場所ごとにいろいろな種類の野鳥が観察できます。

また年2回長野県や鳥取県など遠隔地での宿泊探鳥会または日帰り探鳥会を実施しています。

○外部団体との交流

宝塚市内の小中学校や自治会、コミュニティなど希望があれば野鳥観察会を企画実施し、野鳥観察を通じて自然環境保全の大切さや野鳥知識の普及啓蒙に取り組んでいます。

また環境都市宝塚推進市民会議への参加を通じ、自然環境保全への取り組みを図っています。

○調査活動

①タカの渡り調査

毎年9月中旬から10月上旬にかけて宝塚市内を沢山のタカが西に向かって渡って行きます。当会では会員有志により市内塩尾寺高台広場で渡って行くサシバ、ハチクマ、ノスリなどタカの渡りをカウント調査しています。調査結果はインターネットタカの渡りネットワークを通じ全国に報知されています。

②ヒヨドリの渡り調査

毎年9月～10月市内を沢山のヒヨドリが東から西へ渡って行きます。当会では市内すみれが丘、御殿山で会員有志による定点調査を行い、ヒヨドリの渡りの実態解明を行っています。調査結果は会報せきれいに掲載しています。

○作品展の開催

毎年5月、宝塚市国際文化センターで野鳥作品展を開催し、会員撮影の野鳥写真、野鳥絵画、バードカービングを展示しています。

○会報の発行

年4回会報「せきれい」を発行し、会員の投稿、野鳥行事などを掲載しています。

○ホームページ

URL <http://www.wq.plala.or.jp/tori/>



探鳥会風景

野鳥観察の魅力

野鳥は季節、環境によってさまざまな鳥たちが住んでいます。
初夏の森の中でじっと耳を傾けると鳥たちのさえずりが聞こえてくるでしょう。
深山の溪流ではアカショウビンのキョロロロロロが聞こえてきます。
梢の上で囀るオオルリの美しい歌声、キビタキのさえずり。
野鳥観察は様々な場所で鳥たちの美しい姿や声を楽しむことができます。
みなさんは是非バードウォッチングで鳥たちを楽しんで下さい。

■連絡先

代表者 会長 丹羽 弘
〒665-0841 兵庫県宝塚市御殿山 2-24-3

TEL : 0797-86-6351
FAX : 0797-86-6351

■ホームページ <http://www.wq.plala.or.jp/tori/>

■E-Mail : niwatori28hotmail.com

■主な活動地名

宝塚市、西宮市、神戸市、川西市、
箕面市、三田市

子どもたちといっしょにエドヒガンを守る 溪のサクラを守る会

多田グリーンハイツは約6000戸の住宅地です。そのすぐそば川西市水明台1丁目の猪名川斜面に、樹齢40～50年のエドヒガンザクラが70数本群生しています。住宅地と猪名川の渓流にはさまれた元里山の急斜面と、宅地造成によって50年前に放置された段々畑に、小鳥たちが落としたエドヒガンの種が幸運にも芽生え、成長してこの群生地は誕生しました。ここが私たち溪（たに）のサクラを守る会の活動地で、市所有地約4haの管理許可をもらって整備をはじめ3年目に入ります。この活動地は大別すると3つに区分できます。①段々畑あとのエドヒガン群生地 ②元里山斜面のアカマツ・コナラ林 ③隣接するヒノキの放置植林で、私たちはそれぞれのもっともふさわしい姿を想定して整備を進めているところです。エドヒガンの群生地はやっと初期整備が終わり、ネザサや照葉樹が密生しフジヅルに絡まれていた



のこぎり 実習

サクラの根元に、再び光を届けることができました。アカマツ・コナラ林は、整備が進むにつれてツツジやガマズミ・ウグイスカグラなどの低木が、可憐な花を咲かせ始めています。整備した地にはフデリンドウ・ツルリンドウ・シュンラン・キンラン・ササユリなどの貴重な草花や、スマレ・ハクサンハタザオなどの群生も出現し、植生の多様化と景観の回復が確実に進んでいます。ひと博の自然・環境再生研の指導をいただきながら、生物多様性の実現と猪名川の景観回復を目指しています。

この活動地に H21年度から、地元の陽明・緑台両小学校の環境体験学習を計9回受け入れ、子どもたちとともにエドヒガンの毎木調査や育苗、ハサミ・ノコギリを使う実習などに取り組んでいます。

子供たちが溪（たに）の生物と友達になり、家



活動中

■連絡先

代表者 西澤孟治
〒666-0116 兵庫県川西市水明台3丁目3番24号

TEL : 072-792-8861
FAX : 072-792-8861

■E-Mail : Takeji.nishizawa@rapid.ocn.ne.jp



フデリンドウ〈左〉
ササユリ〈中〉
タチボスミレ〈右〉

族を連れて訪れ、ふるさとの森として心にぎざんてくれるよう祈りながら、ずうっと末永くお世話をつづけたいと思っています。

H22年のエドヒガン開花にあわせ、地元自治会の協力を得て、活動地を初めて一般市民に公開しました。連日多くの方が溪を訪れ関心の高さに驚きました。みなさん、住宅のすぐそばにこんな素晴らしい景観があることに驚かれ、私たちの活動に共感いただいています。



年輪調査

○エドヒガンをはじめ5種類のサクラを適切に保護して、サクラの溪（たに）として市民に親しまれる景観をつくります。

○アカマツ・クヌギ・コナラ・クリ・ホオノキなどの高木を適度に間伐して、光あふれる明るい森をつくります。

○フデリンドウ・ツルリンドウ・キンラン・シュンラン・ササユリなど、大切な山野草が増殖する植生環境をつくります。

○子供たちが笑顔で学び遊んで、いつまでも心に残るふるさとの森づくり、市民から信頼される保護活動を、明るく楽しく、息永く続けていきます。



満開のエドヒガンザクラー1



満開のエドヒガンザクラー2

■主な活動地名

川西市水明台1丁目

若いけど頼りになります。調査、セミナーお任せあれ!

ひとはく連携活動グループ テネラル

人と自然の博物館のセミナー「ユース昆虫研究室（旧 昆虫学ハイスクール）」の卒業生を中心とした高校生と大学生、大学院生で構成される「昆虫少年の健全育成」を使命とした誇り高きグループです。「テネラル」とは羽化後まだ体がやわらかい状態の成虫を指します。義務教育は終わったものの、未だ社会に巣立っていない学生を「テネラル」に喩え命名しました。



サマースクールの事前学習会で野外調査の作戦会議



サマースクールで灯火採集作業の補助



サマースクールで昆虫採集の指導



サイエンスフォーラムでの発表風景

小学生・中学生を対象とした昆虫関係のセミナー（ハチ北サマースクールやユース昆虫研究室など）や人と自然の博物館で開催される学会などにおいてスタッフとして活動しています。2009年に運営を再開した兵庫県佐用町昆虫館では、若さ故の体力と柔軟な発想力を発揮して一日館長の補助や定期的な昆虫採集会の企画・運営などを担当しています。同年に佐用町を襲った水害によって昆虫館が土砂に埋没した際は、除砂作業に尽力し、多大な貢献を果たしました。今やテネラルは佐用町昆虫館にとって無くてならない存在になっています。

大学生が中心となって昆虫採集旅行を企画し、毎年日本各地に遠征しています。これまでの実績として、北海道、北陸、信州、沖縄本島、八重山諸島などへ行きました。

顔を合わせる機会が少ない地方大学に進学したメンバーと、親睦を深め、情報を共有するため、毎年新年会を開催しています。



北海道に生息する美しいオオルリオサムシ〈左〉
八重山諸島で初春に出現するオオヒゲブトハナムグリ〈中〉
樹皮下に生息するルリヒラタムシ〈右〉

子どもたちへの指導は、自らを見つめ直し、学ぶためのよい機会です。また学会では、大学生や大学教員の研究発表に直接触れることができます。昆虫採集旅行では計画を立案し、日程や移動手段等を調整する能力が求められます。様々な年齢や職業の方々との交流や、多彩な経験を積むことで、自ら考え行動できる大人に成長していきたいと考えています。



佐用町昆虫館で復興作業中のメンバー



北陸の湿地で水生昆虫を搜索



洞窟に生息する昆虫の調査

日本各地で行った昆虫採集の調査で発見した昆虫を紹介します。

オオルリオサムシは北海道に生息する非常に綺麗なオサムシの仲間です。2008年に北海道の千歳市で採集しました。オオヒゲブトハナムグリは沖縄県の八重山諸島に生息するコガネムシです。成虫の色彩は、赤銅色から群青色まで多様です。成虫の期間が非常に短いため、採集が難しい種類です。2009年に西表島で採集しました。

ルリヒラタムシは倒木などの樹皮下に生息している甲虫です。赤色のベニヒラタムシはよく見かけますが、本種は少なく、見つけた時の喜びは格別です。2010年に兵庫県で採集しました。



銅路湿原で水生昆虫を搜索



材からシロスジカミキリを採集

■連絡先

代表者 室崎隆春

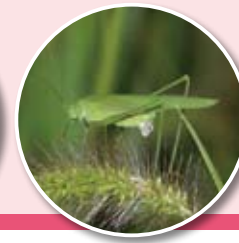
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館

■主な活動地名

兵庫県立人と自然の博物館、
佐用町昆虫館、三木山森林公園、
ハチ北高原スキー場

キリギリス・コオロギを学んで鳴く虫の文化を伝える

ひとはく連携活動グループ 鳴く虫研究会「きんひばり」



珍虫ヒサゴクサキリの顔〈左〉
葉裏で鳴くカンタン〈中〉
ツユムシ〈右〉

『より多くの人を「鳴く虫が奏でる優美な幻想的な世界」へ誘い、その楽しさを知らせ、昔ながらのゆとりある豊かな気持ちを広めていく』ことを目的に、兵庫県立人と自然の博物館の「鳴く虫インストラクター養成講座(初級・上級)」の修了生が集い、インストラクターとして次のような活動を行っています。

①ひとはく協力活動

- ・30余種の鳴く虫の声を聞き分ける
インストラクター養成講座の支援
- ・小学校自然環境学習のアシスト
- ・鳴く虫を聴く会のアシスト
- ・佐用町昆虫館行事との連携

②主催活動

- ・「親と子の鳴く虫の夕べ」(ひとはく共催)
- ・イベント出展:「ひとはく企画展」「ひとはくフェスティバル」「橿原市昆虫館むしまつり」
- ・観察会の開催



親と子の鳴く虫の夕べの様子



ひとはくでのイベント風景

③外部要請活動

- ・有馬富士公園「夏の鳴く虫観察会」
- ・シニア自然大学(大阪)「バッタと鳴く虫講座」



淀川でのシニア自然大学を支援

④調査・研究活動

- ・「共生のひろば」発表
 - 深田公園の鳴く虫マップ
 - 有馬富士公園の鳴く虫マップ
 - 道場町の鳴く虫マップ
 - ヒサゴクサキリの謎に迫る
 - 「ぎっちゃん君とともに」
- ・鳴く虫分布調査
- ・会員の個人研究
 - 採集・標本作製
 - 飼育観察:クツワムシ、キリギリス、スズムシ、コガタコオロギなどの飼育、繁殖食草(餌)調査 幼虫同定24時間鳴き声調査
 - フィールド活動:いろいろな場所、季節での声の聞き取り調査、行動観察、写真撮影

クツワムシの生息環境調査

⑤展示物・おもちゃ作成活動

会員のアイデアや趣味・特技を生かして、展示物やおもちゃ・カードなどを手作りし、イベントで活用しています。自然と鳴く虫に親しめるように、遊んで楽しい・作って楽しい・観て楽しいものをと工夫しています。

- カード遊び:3枚合わせ・親子合わせ
- パズル遊び:4枚合わせ・ヘキサフレクサゴン
- 動くおもちゃ:ぱたぱた・くるくる不思議パック・ぎっピョンくん・翅を動かすキンヒバリ
- 鳴く虫旗源平

○鳴く虫マジック

- 工作:うちわ作り・牛乳パックのキリギリス型虫かご・ペットボトルの虫かご
- 展示物:どんな虫が鳴いているかな・鳴く虫の住む場所



企画展「ぎっちゃん君参上」の際の展示風景

初夏から晩秋にかけてコオロギ・キリギリス類のなにかが草むらや水辺などで鳴いており、場所や時期によりその声の主が違ったり、呼び鳴き(普通の鳴き声)や誘い鳴き(メスが近くにいた時の鳴き声)があったりと飽きることなく耳を楽しませてくれます。

その中でのオススメは、会の名前にもなっている「キンヒバリ」です。体長8ミリほどの小さなコオロギですが、銚色の体や羽は光を受けると金色に輝き、初夏に水辺の草むらで心地よい澄んだ鳴き声を聞かせてくれます。飛び交うホタルの傍らで鳴いていることもあるのですが、なかなか人々に気づかれないようです。また、虫かごで鳴く声は、そこはかたく田舎の夜の雰囲気醸し出してくれます。身近なスポットはひとはくのある深田公園の水辺です。是非一度聴いてみてください。



キンヒバリ

■連絡先

代表者 薦田佳郎
〒651-1122 兵庫県神戸市北区君影町4-8-7

TEL : 078-591-7119
FAX : 078-591-7119

■E-Mail : y_komoda@muc.biglobe.ne.jp

■主な活動地名

兵庫県立人と自然の博物館

学校と地域で守る。街中のウエットランド。

鳴尾北小学校 環境ボランティア グリーンラボ



「コウキヤガラ」学校の近所で見つかった希少種。兵庫県RDB Bランク〈左〉
 「カワバタモロコ」西宮市北部で捕獲されて市が保護していた魚兵庫県RDB Aランク〈中〉
 「カキラン」市内の湿地に生き残っているカキラン〈右〉

平成21年から兵庫県西宮市の鳴尾北小学校でビオトープの整備活動を始めました。もともと学校に設置されていた流水実験設備を、学校と地域の力で、いろんな植物や動物が住む池にして、学校の環境教育に役立てる様に活動をしています。整備する前の池は、オオカナダモとエビが大繁殖しメダカとフナが数匹いる程度の見捨てられたため池のようでしたが、浅瀬や湿地帯といった多様な環境を作り出してみました。そして、それぞれの環境に適していると思われる、もともと日本に分布している水生植物や動物を植えたり放流したりしました。今後も湿地帯の面積を増やし水生生物の多様化を目指してゆくつもりです。



池全体の様子です。今後は陸地部分にも湿地帯を設けて面積を増やしていきます。

この会のコンセプトは「西宮市内の生き物を知ろう」「外来種を入れない」「地域で特色ある生物の調査と保全」としています。都市近郊区という地の利から、西宮市内では未だに宅地開発などによって身近な自然が失われつつあります。当ビオトープ

では市内で宅地造成予定地となっている場所や、管理放棄されつつある市内の草原、攪乱や氾濫などによって消失する可能性の高い場所などから植物などを移植、または種子を採取・散布し、市内で減少しつつある生物を実験的に保護・育成維持し、子ども達に実際の生物や植物の姿を知ってもらうことを目的としています。これまでに転売予定の休耕地や、宅地化予定の棚田から兵庫県RDB(2010)で新たにBランク指定を受けたオトコゼリのほか、カキラン、コバギボウシ、オミナエシ、リンドウ、アカショウマなどの湿地性・草原性植物を移植しました、また学区内の身近な水辺である武庫川水系の水路からエビモ、ヤナギモ、ササバモ、市内のため池からはヒツジグサ、ジュンサイなどを導入しました。また当会の調査によって新たに学校近くの水路で発見されたコウキヤガラ群生地



整備する前の様子、オオカナダモがはびこっていました。

■連絡先

代表者 藤田茂宏

〒663- 兵庫県西宮市学文殿町2丁目2-7 鳴尾北小学校内

■E-Mail : naruoke1@nishi.or.jp

TEL : 0798-47-1051

FAX : 0798-47-9507

から数株のコウキヤガラを移植しました。

住宅街の真ん中にある小さなビオトープですが、いろんな思いが詰まったウエットランドです。ここを活用して、普段目につかない周辺の自然などを紹介してゆき、小学生を始めとした地域の人々の協力を得て保全活動を行ってゆけば、数年後には西宮市北部の里山の水辺が再現しているに違いありません。



エビモ、フトヒルムシロ、ヤナギモを移植しました。定期的な水質調査などを行いながら生育過程を監視しています。



ジュンサイと小さな花を咲かせたヒツジグサ。ジュンサイは殖芽の状態で移入しています。



湿地帯の一部が完成しカキラン、コバギボウシ、オミナエシ、リンドウ、アカショウマを移植しています。今後は湿地の面積を広げます。

学校周辺の水路は自然が見つかる貴重な場所。準絶滅危惧種に指定されているメダカやドジョウのほか、オイカワ、カワムツ、ニゴイ、カマツカ、ギンブナ、コイが健在です。在来種の水生物のエビモ、ヤナギモ、コウキヤガラがあります。また、武庫川の水辺や河川敷ではミズヒマワリ、ナガエツルノゲイトウ、キシウズメノヒエ、コゴメイなどの外来種がはびこるなか、ヤガミスゲ、ゴキヅル、カワラサイコなどの希少な植物や、サンカクイ、アゼナルコ、オギ、ヘラオモダカなどの水辺を特徴づける植物が生育しています。西宮市北部にはジュンサイやヒツジグサが浮かぶ溜池が見られる里山が広がっています。この地域ではモリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、カスミサンショウウオといった水生生物も数多く見られ、里山という人為的に維持された環境に依存する植物も豊富に生育しています。会ではこれらの生物・植物の調査・保全、小学校での環境学習、地域住民に対するPRなどを行って行く予定です。

■主な活動地名

兵庫県西宮市学文殿町2丁目2-7

共に行動し、観察し、動植物の名前や自然環境を学びましょう

西宮自然保護協会

1974(昭和49)年に兵庫県自然保護協会西宮支部から独立し発足、学校関係の自然研究グループのメンバーが加わり活動が再開された。書籍を発行することにより西宮の自然を広く市民に知ってもらい、活用してもらえよう、蓄積されてきた資料を活用し、再調査を行いながら1977(昭和52)年「西宮の自然」を出版した。このころから一般会員向けの活動も活発化し、観察会や各種委託調査、カレンダーの発行など順次行うようになった。

1冊目が出版されてからますます研究が盛んになり、続けて「続西宮の自然」、そして「歩いてみよう西宮」、「続歩いてみよう西宮」と立て続けに発行できる機会があった。これらはすべて会の自力だけではできず、西宮にある某ロータリークラブの援助によるところが大きい。2005年には協会30周年を記念し「ふるさと西宮の自然」を出版した。これらの出版物は西宮の自然環境や動



動植物の生息調査を行った



総会時における講演会

植物の変遷などを知ることのできる貴重な資料となっている。

西宮市は山、川、海と多彩な自然環境を持っている。南側は西宮のシンボル甲山を中心とした自然環境を持ち、最南部は海浜部となっている。大阪湾で唯一残された自然海岸であり、湾奥部という環境にも関わらず多くの生き物がみられる。海浜部も何十年間の間には大きな変遷があった。埋め立てがなかった時代、埋め立てられ閉鎖水域になった時代、そして下水が整備されていなかった時代、下水がほぼ整備された現代の河川などによる水質の変化や生き物の変化が海浜部にどのような影響を与えているだろうかなど興味深いこともある。甲山周辺でも未整備の時代、整備されてきた現代、何が変わったであろうか。そういったことを長年の調査を通してとらえ、啓蒙していくことも協会の一つの役割として活動している。

■連絡先

代表者 三宅隆三
〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-13-4
西宮市貝類館内

TEL : 0798-33-4888
FAX : 0798-33-5885



ササユリ



ハッチョウトンボ



ハマゴウ

6月頃里山でみられるが少なくなってきた(左)
湿原の小さなトンボ、ごく一部でしか見られない(中)
海浜植物、西宮の海辺では健在(右)

一般会員にも啓蒙を欠かさず、その一環として機関誌「さざなみ」の発行やカレンダーの作成を続け配布を行なっている。小・中学校や公民館などに配布し、「西宮にはまだまだこんなに良い自然環境があるんだよ」と植物や昆虫の写真を中心に紹介してきて31年目になる。

毎月の自然観察会では西宮を中心に阪神間を歩き、過去との比較や環境とのかかわりなど勉強しつつ、植物の名前の由来やにおい、味などを楽しみ、野鳥の鳴き声を楽しみ、珍しい昆虫とのふれあいを楽しみながらそれぞれの生息環境の大切さを学んでいる。年2回の講演会では学識経験者を招き環境を絡めた生物多様性の講演をしていただいている。それぞれの立場で考えつつ行動し、楽しんで今の自然環境を考えてもらえればと企画し

西宮では貴重な湿原が保護されており、そこには殆ど見られなくなったハッチョウトンボ、ヒメタイコウチ等の動物やカキラン、トキソウなどの湿原性植物が生息している。また海浜部でも一時は見られなくなった植物が芽生えてきている。調査や観察会を通して新しい発見があると感動する。
自然に興味のある方ならどなたでも歓迎。是非一緒に行動し自然環境を考えてみませんか。

細々ながら活動している。あまり環境や保護のことを口に出さなくても、みな自然に感じ取り行動してきてくれるようになっていく。外来種の問題や、地球温暖化の影響など問題は山ほどあるが生き物を通して少しでも環境を考えてくれる人が増えることを願っている。



地震から10数年、改めて活断層の勉強会を行う

毎年身近にみられる植物や生き物を楽しんでもらうためにカレンダーを作成



■主な活動地名

西宮を中心とした阪神間



西宮の海辺で生息する生き物調査

小さな生き物、貝類を通して環境を考えましょう

阪神貝類談話会

西宮市に住む菊池典男博士を中心として5名ほどが集まり始めたのが最初である。その後、近畿地区会と称し、参加人数も増え、1966(昭和41)年阪神貝類談話会として正式に発足した。翌年1967年には機関紙「かいなかま」をガリ版刷りで発行している。現在44巻に達している。この頃黒田博士も西宮回生病院へ奥様ともども居を移され、談話会の例会に毎回出席されて貝に関する講演をされていた。博士はとても熱心で専門的であり、学名でお話をされるが多かった。会員は覚えられずメモをとったり録音をしたりする方もおられたが決して録音機のほうへ顔を向けてお話をすることがなかった。現在残っているテープがあるが小さな声で聞き取れない部分も多くあり、再生したくてもなかなかできにくい。しかし貴重な録音であることには変わりはない。

この頃は菊池貝類研究所で例会が行われていて、聞き足りない人や、貝の分類に関しても、採集地に関しても、貝の話を色々したい人は例会



淡路島の貴重な島の陸産貝類調査を行った



毎月の例会では会員を中心とした講演が行われる

終了後も残っていつまでも貝の話に興じていた。黒田先生ご存命のころは大山 桂博士、波部忠重博士、金子寿衛男先生、安藤保二先生など貝の専門の先生方がたくさんおられ、毎回分類の話や微小貝の話題、属模式の話題などで盛り上がった。

1999年5月に西宮市貝類館が西宮浜に開館し例会も西宮浜公民館へ移動し、講演者も若くなり、貝の分類もDNAを使った方法へと進化してきた。会員のほとんどは収集家であり、趣味の人も多くなってきているので分類の仕方が変わったからと言ってすぐには対応できない人も多い。これから先ますます分類体系が変わっていく可能性があるとするならば、貝類の分類はどうなっていくのであろうか。

一口に貝類といっても海の貝、淡水の貝、陸の貝と大きく分類される。いずれも破壊、汚染、薬剤、環境の変化などに大きく影響される。40~50年代の高度経済成長期に海岸線は埋め立てられ、垂

直護岸に変わってきてしまった。陸地でも住宅地造成、埋め立ての為に土砂採取、高速道路の建設などの影響で自然環境が破壊され、動物にとってすみにくい環境となる一方、人間にとって住みよ



貝類愛好家の楽しみなバザー

小さな貝ではあるが環境の影響を大きく受けるため、陸でも川でも海でも貝類は指標生物的な役割を担っている。今までのような乱開発や埋立は行われる事は無くなってくだろうし、これからは自然の再生へ向けての活動や行動が求められる、昔へ戻す工事も行われるようになった。

貝類の収集をしながら、環境の変化を感じながら、生き残っている貝達に感謝し、活動をつけている。貝類に興味のある方ならどなたでも歓迎です。

い環境が造られてきた。

例会でも、貝の観察会でもそんな状況を把握しながら、ではどうしたらという議論まではなかなかいかない現状がある。しかし最近は何かをしようとする時、例えば道路を造るため、宅地を造成するため、建築物を造るため、などの時は必ず環境調査をするようになってきた。その中でも貝類は小さく、移動性も乏しく、一番に影響を受けやすいため念入りに調査が行われる。希少種が出現すればストップになることも珍しくない現在である。調査を続けながら、環境破壊を食い止めるべく提言などを行い、それをまた例会で報告することにより、会員の啓蒙を図っていくことができる。これからは破壊された地域で生息環境の回復が行われるような再生への取り組みが必要であろう。



磯海岸で貝類の調査を兼ね観察会の実施



外部から講師を招き自然環境を絡めた貝類の講演会

■連絡先

代表者 鈴木章司

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-13-4

西宮市貝類館内

TEL : 0798-33-4888

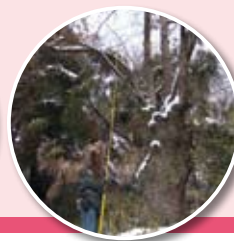
FAX : 0798-33-5885

■主な活動地名

西宮を中心とした阪神間

日本一の生きた里山とともに!

NPO法人 ひとくら里山楽校



台場クヌギ〈左〉
台場クヌギ〈中〉
エドヒガン〈右〉

猪名川の上流域、一庫ダム湖に面する『兵庫県一庫公園(兵庫県川西市国崎知明)』周辺域は、今なお茶道用道具炭の炭焼き文化と薪炭林(クヌギ林)が残る生きた里山です。

私達は生きた里山＝一庫を舞台に豊かな自然を次世代に引き継ぐことを目的に、里山の環境保全、環境学習、里山文化の継承による地域の活性化、里山の豊かな環境の中での子育てに関する事業を行い、だれもが自然と共生することの大切さを考え、次世代を担う子供たちが生き生きと暮らせる持続可能な社会の形成に寄与したいと考えています。

①台場クヌギの育成

一庫公園において、地域の炭焼き職人やボランティア、公園管理者とともに数十年放置されたクヌギ林を伐採、萌芽更新させ、地域特有の台場クヌギ林の育成に携わりました。

②エドヒガン調査

一庫公園内に生育する貴重なエドヒガン群(兵



一庫公園におけるエドヒガン調査

庫県レッドデータ種(ランク)の調査を人と自然の博物館との協働により行っています。

③環境学習支援

小学校3年生を対象とする環境学習の受入や、環境学習の指導者の資格であるスクールインテリター養成講座(環境大臣登録人材認定等事業・文部科学大臣登録人材認定等事業)の開催を行っています。

④里山ボランティア活動支援

里山を舞台とした環境学習指導や里山管理などのボランティア活動の安全講習の一環として、マムシやヤマカガシといった毒蛇の生態を学ぶ講座の開催などを行っています。

⑤食育(きららの森のキッチン)

私たちの生活水でも一庫ダムに囲まれた一庫公園において、「歩く」「作業する」「食べる」ことをモットーに、山菜、柿、野いちご、山桃、栗、

シイの実、ホウ葉など里山の恵みを子供と一緒に採取し(歩く&作業する)、調理して、食べることによって、水とともにある私たちの生活を感じ、自然の大切さを学ぶ場を提供しています。



スクールインテリター養成講座



毒蛇の生態を学ぶ講習会



一庫公園における食育活動(きららの森のキッチン)

ひとくら里山楽校からのメッセージ

台場クヌギの印象的な造形は、製炭が営まれてきた里山の暮らしのあかしです。切られても、切られても、なお芽を吹く、そのたくましい生命力に私たちの暮らしが支えられてきたこと。また、クヌギを中心とする多様な生き物の世界を、これからの子どもたちに伝えていきたい。



一庫公園における台場クヌギ育成作業

■連絡先

代表者

〒 兵庫県川辺郡猪名川町

■ホームページ <http://hitokurascape.com>

■E-Mail : hitokura10@yahoo.co.jp

■主な活動地名

兵庫県立 一庫公園およびその周辺域

人と自然の共生を求めて

NPO法人 人と自然の会



むしむしガーデンのゲストたち。
ヤマトタマムシ <左>
ベニシジミ <中>
セスジスズメ <右>

「人と自然の会」は「人と自然の博物館」を拠点に活動しています。

人と自然の共生をめざして体験学習や話題提供、さらには自然とのふれあいを通じて子どもたちや来館者向けの普及活動をしています。

始まりは兵庫県立人と自然の博物館のボランティアグループでした。

1994年人と自然の博物館ボランティアとして登録し、博物館を舞台に活動を開始しました。その後、1999年NPO法人人と自然の会を設立し、現在に至っています。



とれた～

主な活動

＊ドリームスタジオ

毎月第3日曜日、博物館で自由に参加できる楽しい体験型学習プログラムを実施しています。実施回数は150回を超え、参加者は14,500人に上ります。

＊環境体験学習

ドリームスタジオの経験を生かして今年度から取り組みを始めました。子どもたちに自然体験活動を通して環境の大切さを伝えていきます。

＊ひとはくのお正月

1月3日には「ひとはくのお正月～日本の昔遊び～」を開催しています。手作りの凧揚げ、竹とんぼ、コマ回し、羽根突き、百人一首など、日本の正月遊びの体験を通して伝統と文化への理解を



葉っぱでアート。子どもたちの創造力に脱帽！

深めます。毎年多くの方が参加して、地域のお正月の恒例行事となっています。

＊サークル活動

テーマごとに活動しているグループがあり、ときには博物館の研究員と協働し、資料を集め、調査をし、その成果を展示等に活かしています。

現在、ネイチャー・クラフトクラブ、植物観察



市民植物観察会

会、封入標本サークル、星の会、里山クラブ、古代の会、かわせみの会、サークルむしむしガーデン、花工房があります。



藍の摘み取り。この葉を使って藍染めをします。

「むしむしガーデン」は昆虫の好む植物を植栽、管理し、集まる昆虫との共生の場をつくり、身近な環境で体験的に虫を観察できる場です。



ひとはくのお正月。思いっきりタコ揚げ。

■連絡先

代表者 佐竹千代子
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館内 V ルーム（活動拠点）
■ホームページ <http://ukiuki.michikusa.jp/>
■E-Mail : hitotosizen@mail.goo.ne.jp

TEL : 090-1586-3851
FAX :

■主な活動地名

三田市、神戸市、宝塚市、伊丹市

愉快地、楽しく、面白く、自然工作に感動を求めて!!

NPO法人 人と自然の会

ネイチャークラフト・クラブ



子供達に人気のあるどんぐりで作るカブトムシのプローチ(左)
子供から高齢者まで男女を問わず人気のハネージュメロンの種で作成するプローチ(中)
マンゴウの種で作成する自然素材そのまま(千支一番目)のネズミの置物(右)

タンポポのボトルフラワー、口の小さい瓶に綿毛になる前のタンポポをシリカゲルと共に封入。数日後には綿毛となり知らない人にはどのように封入したのか?疑問と不思議と感動を!!同時に関西と西洋タンポポの違い等を学びます。サブライズに参加者とタンポポのサラダとお茶の料理・またまた感動!!

「むしむしガーデン(昆虫の好む植物を植栽し植物と昆虫の共生の様子を子供達が体験・観察出来る畑)サークル」との相互協力で種子から育てた「藍」を環境セミナー・ドリームスタジオ参加の市民の方々と刈り取り「藍の生葉染め」の体験型学習を実施しています。世界に一枚しかない作品の染め具合と模様に一喜一憂し楽しんで頂きます。

毎年秋に盛大に行われる「ひとはくフェスティバル」には自然素材利用の自然工作で幼稚園から高齢者迄楽しみ喜び感動して頂ける魅力あるメ



藍の生葉で染め上げ満足そうな笑顔で発表する子供達



ママと真剣な表情で恐竜太鼓作成中

ニューに知恵を絞って参加しております。

日本の伝承文化の一つではありますが、殆ど家庭では作られなくなった本格的な「しめ縄飾り」(玄人はだしの指導者がいます)を楽しんで頂きお正月には自作品で玄関を飾って頂きます。又、



朝採りのタンポポでサラダ料理に取り組む参加者

干支工作(昨年は寅年でどんぐりの「タイガース人形」阪神優勝祈りつつ!!「トラのデンデン太鼓」)も楽しみの一つです。

恒例となった「ひとはくのお正月・・・日本の昔遊び」には「コマ回し」で参加。他のサークルと連携「凧揚げ」「羽根突き」「お手玉」「百人一首」「スーパー竹トンボ」等好評で子供も大人も大いに盛り上がります。

スキルアップと親睦を兼ね他施設等との交流・

市民の皆様(子供達)と、愉快地、楽しく、面白く、身近な自然素材を活用した自然工作に感動を求めて!!

ひとはくの研究員の先生方の協力を得て調べた事、学んだ事、不思議な事、面白いと思った事等を体験型学習プログラムとして実施。自然工作を通して自然の大切さ・自然との共生(生物は互いに支え合って生きていること)を学び理解を深める。

行政・学校との連携による環境学習プログラムにも積極的に取り組んでおります。

もちろん我々スタッフが楽しく学び遊び感動する事が一番ですが!!

自然工作に興味があり楽しみ遊びたい方の入会歓迎!!



パパのいいところ、見せなくちゃ



スタッフの研修・古来の方式での紙漉き

■連絡先

代表者 佐竹千代子

TEL : 090-1586-3851

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館 ボランティアルーム(活動拠点)

■ホームページ <http://ukiuki.michikusa.jp/>

■E-Mail : hitotosizen@mail.goo.ne.jp

■主な活動地名

三田市、神戸市、宝塚市、伊丹市

自然を 封じ込めよう NPO法人 人と自然の会 封入標本サークル

10年前、私たちはひととはくの三橋先生（流域生態研究グループ）から初めて封入標本のことを教わりました。手作りに挑戦しようとお誘いを受け、ご指導と試行錯誤を経てなんとか今の技術段階に至りました。

スタート時点では封入対象は主に水生昆虫（カゲロウ、トビゲラ、カワゲラ、ヘビトンボ等）でしたが、女性メンバーは花や落ち葉、木の実、鳥の羽根などカラフルなもの美しいものに関心が高く、容器（仕上がりの形になるので目的により工夫が必要）もチリレンゲを試みるなど標本という固定観念から離れて自由に楽しいグッズ（ペーパーウェイト）装飾品へと変化しました。しかし、自然の姿がそのまま封じ込まれているので観察できるという標本の一義性は残っています。



封入標本の原理とウチのウチク



動物のウチのいろいろ。大きさ、型、色がいろいろ。

男の子はやはり昆虫で、クワガタ、タマムシ、カミキリムシなど甲虫に人気があります。オオスズメバチは主催者側で用意するケースが多いですが、同伴の保護者の方の眼の色が変わります。

封入標本の魅力は標本でありながら、ハンディでその扱いが簡単なおうえ、いろんな角度から観察できることだと思います。水生昆虫、魚類の分野では威力を発揮します。幼虫と成虫をセットで封入することの快感はどうでしょう。（ヤゴとトンボ、カワニナと幼虫とホタル・・・）採集の苦労とうまく樹脂を注入して脱型し、磨き上げ完成した時の喜びと人に見てもらおうことの楽しさは本人にしかわかりません。その標本についてのショートストーリーを制作者の口から聞いた人がさらに自然の魅力に取りつかれることを願いながら、野草・温泉に元気づけられながら愉快にやっています。



水生昆虫(カワゲラ・カゲロウ)〈左〉
オオスズメバチ(♀)〈中〉
ダリア〈右〉

これからの挑戦

カザグルマ（三田市 市花）、タンポポ（セイヨウ、カンサイ、シロバナ）の綿帽子（種子）と花、川の模式縦断面（水面から水底に生活している生物たち）、イワシ（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）とその水産物、ムラサキトビゲラの幼虫と成虫のセット・・・メンバーはそれぞれの自然を封じこめようと大きな夢を追いかけています。



樹脂の計量は正確に



一瞬の集中力が勝負です。



ムラサキトビゲラの幼虫探しが課題。

■連絡先

代表者 佐竹千代子
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
兵庫県立人と自然の博物館内 V ルーム（活動拠点）
■ホームページ <http://ukiuki.michikusa.jp/>
■E-Mail : hitotosizen@mail.goo.ne.jp

TEL : 090-1586-3851

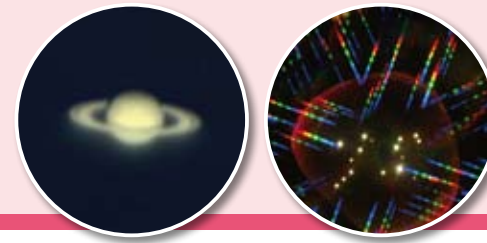
■主な活動地名

三田市 神戸市

時を越えて、宇宙を遊ぼう！ ー天文普及をめざしてー

NPO法人 人と自然の会

星の会



土星の写真〈左〉
星座万華鏡を覗いたスペクトル写真〈右〉



2008年12月撮影、通称：にこにこ顔（金星・木星・月）

●やってきたこと

- A. 主に工作……
 - ①空を飛ぶグッズを作ろう
 - ②星座早見盤 ③星座万華鏡
 - ④惑星ヤジロベー
 - ⑤プーメラン
- B. 講義、解説…
 - ①君は誕生日の夜空を覚えているか
 - ②星座ものがたり（フロアスタッフと）
 - ③四季の星空案内
 - ④黒い太陽を見よう
- C. 他の施設と…
 - ①博物館にプラネタリウムがやってくる（明石市立天文科学館と共催）
- D. その他作……
 - ①地球の大きさを測ろう
 - ②君も天文博士だ（三田市環境セミナー）

●序

秋の夕暮れ、父の肩車で淡い紫色を背にキラッと輝く一番星を見た。父に「あの星は何ていうの」と問いかけると、「金星って言うんだよ、宵の明星とも言うんだ」、父の広い肩が言った。これが星との最初の出会いであった・・・幼い心景は遠い時間の彼方に追いやられていく、が私の奥底に淡く、だが確実に深く溶け込んでいる。

●発足

「星の会」は、平成11年5月に発足した。ひとはくには宇宙系がないこともあり、星関係のイベントはない。自然を相手にした博物館としては寂しいということもあり、有志で立ち上げることとなった。



「惑星やじろベーを作ろう」の風景



「君も天文博士だ」の観察模様

●これからしたいこと

これまでやってきたことは、一回で完結するイベントがほとんどである。それはそれで意義のあることだと思っている。星や宇宙につ

いて関心を持ってもらい、親子、家族で夜空を見上げるきっかけになれば、と意をこめつつやってきた。でも、一回完結では内容も概略的になり、その場限りになってしまう。星や宇宙を通して、いろんなことに関心をもってもらうには、もう少し時間が必要だ。これからは時間を掛け、継続性のあるイベントもやっていきたい。例えば、年1回実施している「君は天文博士だ」を発展させて、「子ども天文教室」のようなことを年数回開催するなど。時間的なこと、能力的なこと、いろいろな壁が立ち塞がっているが、実現に向けて行動をおこしたい。このような思いに賛同していただける方、ぜひこの指にとまってください。（文責：田中慎悟）

平成21年7月22日に日本で皆既日食が見えた。日本では46年ぶりであった。同じ場所で皆既日食が見えるのは、300年に一度と言われている。このチャンスに私たちは巡り合えた。太陽と月と地球が一直線に並び、このすばらしい、神秘的な自然現象！

平成24年5月21日の朝、金環日食が日本の各地の大都市で見える。私たちは幸せだ、二度も生きている間に、奇跡的な自然現象に巡り合えるとは！



平成21年7月22日皆既日食
（硫黄島近海にて）

■連絡先

代表者 佐竹千代子

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館内（活動拠点）

■ホームページ <http://ukiuki.michikusa.jp/>

■E-Mail : hitotosizen@mail.goo.ne.jp

TEL : 090-1586-3851

■主な活動地名

三田市、神戸市、宝塚市、伊丹市

親子で自然とふれあう～幼児からの自然体験活動

ひょうご・宝塚ネイチャーゲームの会



宝塚自然の家での活動～
絵本を使って説明〈左〉
高司児童館での活動～紙
皿UFOだ!〈中〉
全国一斉ネイチャーゲーム
の日～動物になりきる〈右〉

ネイチャーゲーム (TM) とは・・・

1979年米国のナチュラリスト ジョセフ・コーネル氏により発表された活動で、様々な感覚を使って自然を直接体験し、自然への共感を育むものです。ネイチャーゲームには、現在120種類以上の活動があり、四季折々に子供も大人も一緒に自然とふれあうことができます。

ネイチャーゲームのいいところ・・・

- ①知識や年齢に関係なく誰でもできる
- ②町中の公園などどこでも手軽に楽しめる
- ③五感を使って自然を直接体験できる
- ④大人と子供と一緒に楽しめる
- ⑤参加者の心と体の状態にあわせたプログラムが展開できる

ネイチャーゲームの3つの理念・・・

- ①自然への気づきを得る目的がある
- ②自分が得た気づきを他の人と分かち合う
- ③フローラーニングというプログラムの組み方にもとづいて、効果的な体験ができる



同じ色のものを自然の中から探してきます

こんな効果があらわれています・・・

- ①五感を使うので様々な感覚による自然体験ができる
- ②自然の美しさや身近な自然のおもしろさを発見できる
- ③自然や他人への感受性が高まる
- ④自然や環境への理解が深まる
- ⑤他の生き物に対する思いやりや生命を大切にする心が育まれる

こんな会です・・・

ひょうご・宝塚ネイチャーゲームの会は「ネイチャーゲーム活動を通して、身近な子供や大人に自然を案内する」ネイチャーゲームリーダーの集まりです。自然を案内する楽しい資格者の集まりなので、いろいろなところで自然体験活動をしています。



私は誰でしょう? どうやって背中動物を当てるのかな?

こんなところで活動をしています...

- ①宝塚市立高司児童館で毎月第3土曜日の午後に「ネイチャーゲームで遊び隊」をしています
- ②宝塚市自然保護協会の年4回の行事で親子向けのネイチャーゲームの時間を担当しています
- ③「全国一斉ネイチャーゲームの日」を主催して、毎年阪神間でイベントを行っています
- ④県内小学校の5年生の「自然学校」や3年生の「環境体験学習」の時間にネイチャーゲーム体験の時間を持っています
- ⑤宝塚市立ひらいらん文化センターの親子で自然体験する行事を担当しています。
- ⑥その他県立公園やカヌー教室などいろいろなところからネイチャーゲームの体験依頼があります



ミクロの世界をのぞいてごらん



自然の宝物をさがしましょう



目かくして自然を体験

■連絡先

代表者 茶谷和子 (運営委員長)
〒665-0836 兵庫県宝塚市清荒神5丁目78-2

■ E-Mail : fnh00101@kib.biglobe.ne.jp

TEL : 0797-84-5259
FAX : 0797-84-5259

■主な活動地名

宝塚市、三田市、川西市、猪名川町とその周辺地域

ニュータウンを流れる川で自然再生

兵庫県立有馬高等学校 科学部

有馬高校科学部では、平成19年度から、武庫川上流ルネッサンス懇談会（三田土木事務所ほか）や県立人と自然の博物館の協力のもと、「池尻川ホタル再生計画に」取り組んでいます。池尻川というのはフラワータウンとウッドタウンの間を流れる小さな川ですが、コンクリート三面張りであるにもかかわらず、わずかにホタルが生息しています。この川のホタルを守り、もっと増やしていこうというのが、科学部の大きなテーマです。どのような場所にホタルの幼虫が生息しているのかを調べ、その生息域を広げるために、河床に水制を設置しました。水制設置後は、定期的にホタルの幼虫の餌となるカワニナを調査し、その効果を検証しています。この研究成果は、2009年度の日本生態学会高校生部門でも発表し、優秀賞を頂いたほか、科学雑誌「ニュートン」の

2010年7月号でも紹介頂きました。他にも、有馬高校の前のまんまん堤（堀）の魚の調査や、採集した魚の飼育などを行っています。



木材を使って凸凹をつける工事を実施中



有馬高校の近くを流れる3面張りの池尻川



池尻川で採集したカワニナとゲンジボタル幼虫〈左〉
池尻川のコンクリート壁面をのぼるゲンジボタル幼虫〈右〉



毎月のカワニナ調査の様子

毎月の調査で、カワニナが増えてきたことがわかり、とてもうれしいです。これからも、この取り組みを続け、ホタルが乱舞する川を作りたいです。また、調査だけでなく、土木工事や、学会での発表、子ども相手の観察会など、日頃できないことを体験できることが楽しいです。



有馬高校科学部のメンバー。ニュートン取材記者さんと記念撮影。

■連絡先

代表者 土居恭子

〒669-1531 兵庫県三田市天神2丁目1番50号

兵庫県立有馬高等学校

■ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~arima-hs/>

■E-Mail: kydoi@hyogo-c.ed.jp

TEL : 079-563-2881

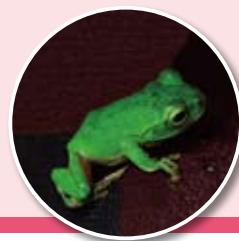
FAX : 079-563-2882

■主な活動地名

三田市池尻川

守り育て引き継ぐ 兵庫県下第一級の丸山湿原

丸山湿原群保全の会



ヒメタイコウチ 〈左〉
シュレーゲルアオガエル
〈左から2つ目〉
ヒナノジャクジョウ
〈右から2つ目〉
スイラン 〈右〉



初夏の第1湿原〈保全の湿原〉・・・
もっとも重要な「母なる湿原」

丸山湿原群は、宝塚市北部の西谷地区、境野の西にある丸山（標高328.4m）周辺にあります。そこには大小複数の湿原が点在しており、その合計面積は2,800㎡以上です。

湿原タイプとしては、湧水湿原に分類されています。不透水層は周囲のはげ山（地元ではズリと呼んでいます。）から供給される粘土からなる埴土と砂が混じる砂質（埴）壤土との互層からなっています。

このような湿原は、昔は兵庫県の各地に存在していましたが、開発や農用地、利用庄、採取・採集に自然遷移という運命も加わって消滅し、今では、この丸山湿原が狭い範囲に生物多様性に富んだ湿原生態系が成り立っている県下第一級の湿原とされています。

この貴重で、多様な動植物が棲息生育する丸山湿原群生態系を後世に引き継ぐため、地域の住民と周辺市町の住民等とが協調・連携しながら保全・活用を行うことを目的に、平成18年12月に「丸山湿原群保全の会」が発足しました。

この会の活動（取り組み）は、①湿原や湿原周辺の生態学的管理活動②盗掘、踏み込み等防止のための監視活動③モニタリング等の自然環境調査および研究の実施④湿原観察会、学習会、湿原ガイド等湿原保全のための啓発活動⑤湿原周辺域の



定置枠植生調査



看板設置

清掃ならびに里山整備⑥地方自治体が行う湿原群保全活用活動への参画と協働、等です。

兵庫県としては、県下第一級の湿原との認識の下、平成16年に「丸山湿原の保全・活用を検討する研究会（その後名称を「宝塚西谷地区湿原群研究協議会」）」を発足させ、保全手法、エコミュージアム構想などを研究するとともに、平成17年に、里山林整備事業で集水地区の樹木の間伐、湿原区域周辺の皆伐、遊歩道付け替え、柵・説明版

設置を実施しました。

現在まで、多くの研究者がこの湿原をフィールドに研究活動をされ、最近ではトヨタ財団の助成を受けて、森林水文学調査を実施しました。このような調査結果については、適宜、説明会を開催し、多くの方と湿原保全の認識を共有するとともに、これら調査結果を湿原保全等に活用してまいります。

湿原の生き物

丸山湿原は保全へのご理解を深めていただくために公開されています。観察のルールを守り、保全活動にご協力願います。

3～7月



カスミサンショウウオ

6～9月



ハッチョウトンボ

7～9月



サギソウ

8～10月



ウメバチソウ

観察のルール

- ・動植物（卵を含む）の採集・採取・捕獲・植栽は禁止されています
- ・柵内（湿原）には学術調査と保全管理作業以外の立ち入りはできません
- ・自動二輪車の通行はご遠慮ください
- ・ごみはお持ち帰りください
- ・火気厳禁、液体廃棄禁止

■連絡先

代表者 岸 恭子

〒669-1211 兵庫県宝塚市大原野字炭屋1-1

■ E-Mail : nishi1234@star.ocn.ne.jp

TEL : 0797-91-1788

FAX : 0797-91-1788

■主な活動地名

丸山湿原

小さな自然再生をすすめています

水辺のフィールドミュージアム研究会



本文中で登場したゲンジボタルです。
幼虫〈左〉成虫〈中〉
本文中で登場した巻貝の
カワニナです。〈右〉

水辺のフィールドミュージアム研究会では、身近な自然環境を対象として、小さな工夫で色々な生物が生息できるような自然を再生する方法を探し、実践して効果を確認しています。くだけた言い方をすると、ときと〜に（労力少なく）活動しても効果が出てしまうような、ゆる〜くて、楽しい"小さな自然再生"の方法を日夜開発中です。ふとした思いつきを実践に移してしまう野性的な若い行動力がモットーです。

具体的には、三田市内のフラワータウン郊外を流れる三面張りの池尻川において、ゲンジボタルやカワニナを再生するための河川改造を行っています。木材で川底に凸凹をつけたり、U字溝やソイルセメントを使って水制をつくったりして、流れに変化を与える試みを行いました。その結果、こうした取り組みを行った場所では、底生動物の

種類や個体数が増えてきました。水制の設置や製作方法は完全オリジナルで、竹を使った竹筋コン



みなさんの協力で土木作業をたのしくすすめます



有馬高校や三田土木事務所と連携して、木材で水制をつくりました



設置してから6ヶ月が経過、なんとか草が生えてきた

クリート製の水制を作っています。

また、有馬富士公園では、ソーラーパネルと小型ポンプを使って、水が流れやすいピオトープ池へと隣接する大池から水を汲み上げる装置を設置。さらに簡易の小型魚道をピオトープ池と大池の間に設置し、魚が移動できる仕掛けを作りました。これにより、魚が大池からピオトープ池へと遡上できるようになりました。

活動4年目となる今年の7月には、シンポジウム「小さな自然再生のすすめ」を開催し、全国にむけての情報発信や普及啓発を行いました。



有馬富士公園に設置した簡易魚道とソーラーパネル&ポンプです



竹と中性セメントを使って水制づくり

身近な水辺は意外にたくさんありますが、改変されている場合が多いです。しかし、よくよく探してみると、改変されていても色々な生物が見つかるいい場所もあります。そんなところを探しだして、ちょっとした工夫を行えば、もっと様々な生物がかえって来ます。何も無いところにピオトープをつくる方法もありますが、川や水路など少しの工夫ですぐに生物が増える地域を再生するのも楽しいですよ。

■連絡先

代表者 久加朋子

〒669-1546 兵庫県三田市弥生ヶ丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館内 流域生態研究グループ

■ホームページ <http://ameblo.jp/mizubefmk/>

■E-Mail : mizubefmk@gmail.com

■主な活動地名

三田市

みやまあかねとすてきななかま

ミヤマアカネ生態研究会(あかねちゃんクラブ)



とても上品な...〈左〉色づくあかねちゃん自然の色はすばらしい〈中〉こんな風にあかねちゃんを追いかけてます!〈右〉

アカトンボのみやまあかね。

六甲山系の東側、仁川や逆瀬川の周は県内有数のミヤマアカネの生息地です。川の近隣の小学生が授業で始めた調査に興味を持ち、「日本でいちばん美しいアカトンボ」に魅せられ、翅にNoを入れて行動調査をするマーキングという方法で、私達は「あかねちゃん」をリサーチしています。



小学生パワー全快でマーキング!

老若男女そろったメンバーは、時に皆で、時に好きな時間に『ミヤマアカネ』に会いに行きます。

活動はマーキングが主ですが、小学校のリサーチや、成人向けの自然観察講座のマーキング調査のサポート活動も行っています。

そしていろいろな人にミヤマアカネの魅力と不思議、そして逆瀬川の自然を知ってもらいたいので大歓迎でサポートしています。

メンバーそれぞれが番号を持ち、捕獲したミヤマアカネに通しNoをマーキングします。川に姿を見せ始める7月頃~11月頃まで定期的にマーキング・再捕獲を行い記録をとります。マーキングされたトンボの再捕獲情報などから、移動距離や、体色変化などを分析。



シニアパワー全快でマーキング!



こんなふうマーキングします

活動を始めて6年目ですが、毎年新しい発見や疑問はつきません。

2008年には、マーキングをしたミヤマアカネが大阪の池田市で再捕獲され、私達の予想を超えた移動距離が記録されました。

その移動経路を知ることが現在の私達の課題です。

その他では、夜中のヤゴの羽化観察。

もうひとつ大事な活動として、

「みやまあかねまつり」の開催があります。

逆瀬川の上にある宝塚ゴルフ倶楽部の御厚意でゴルフ場内部を借りて行うお祭です。

近隣小学校や、近隣の人たちにミヤマアカネを

もっとよく知ってらおうと始めました。

ミヤマアカネの捕獲を体験してもらっただけでなく、虫捕り・虫博士による虫鑑定・投網体験・紙飛行機大会など、広い広場で思う存分自然をたのしんでもらっています。



広いよ! さあ虫だ、魚だ、飛行機だ!



オープニング! さあスタート!

これからの活動

- ・周辺の地域からのミヤマアカネ情報をより多く、広く収集すること。
 - ・ミヤマアカネと共存している他の生き物の生態調査。(特にハグロトンボ・マユタテアカネなどたの種類)のトンボのマーキング調査
- 仁川・逆瀬川は都会の川でありながら、多種の生き物・植物が生息しています。ミヤマアカネのリサーチを通じて自然環境のすばらしさを実感できます。

■連絡先

事務局 辰巳淳子

〒665-0072 兵庫県宝塚市千種3丁目1-15

TEL : 080-1472-8691

FAX : 0797-72-0044

■ホームページ [http:// web.mac.com/pedemontanum/akane](http://web.mac.com/pedemontanum/akane)

■E-Mail : akaneakane@natural.zaq.jp

■主な活動地名

兵庫県宝塚市、兵庫県西宮市、大阪府池田市

子供たちの野外自然環境体験学習を実施しています

武庫ネイチャークラブ



宝塚自然の家のギフチョウ〈左〉
女の子に人気のアキアカネ〈中〉
男の子の大好きなトノサマガエル〈右〉

当クラブは2000年創立以来、「自然に親しみ、自然を愛し、自然を大切に」をモットーにして、宝塚・西宮を中心とした地域の子供、親子や一般市民を対象に、小学校校庭や森林、公園などで、自然体験を通じた環境教育活動を実施している。自然観察会では、子供にも大人にも知恵だけでなく五感を通して多様な植物や生物に接して、自然のふしぎ、自然と接する楽しさ、また自然の大切さを知ってもらい、それぞれなりに自然環境保全の大切さを考えて欲しいと願っている。



校庭の「私の木」に触ってみる

活動の一例として宝塚市内の小学校では、1、2年生の児童が教師の指導の下に校庭などで各自が選んだサクラ、サルスベリなどなど、それぞれの「私の木」を決めていて、私どもが依頼を受けている自然体験授業では数名の班毎にスタッフがついて、入学間もない1年生からなぜ？葉っぱにギザギザがあるの、本当にサルが滑るの？など素朴な沢山の質問に対する会話や、自然のふしぎを

楽しめる実演などを通して「私の木」に親しみ、自然に興味を持って「自然大好き人間」になるきっかけになればと願っている。

3年生に対しては、生き物を調べ、興味・関心を持つての追求活動を通して、生き物を愛護する態度を育むようにカリキュラムが組まれている。私達は学校を離れた生き物が多様な自然の中で、春・夏・秋・冬の年4回「野外環境体験学習」を担当し、森林公園、自然の家や神社の森、武庫川などで、「生き物つながり探検隊」と名付けた野外学習を担当している。ある学校では10名ほどの6班毎に複数のスタッフが付いて、広い森林内でヘビ、ハチなど安全にも気遣いながら、児童の見つけた生き物の住みかや食べ物関係を調べながら広いフィールドをめぐる。必死に昆虫を追う様子や、森の中の狭い水路で蛙を初めて見たと、

なりふり構わずジャブジャブ追っかけている姿や、初めて接する生き物には大きな関心があったが、後で元の場所に、観察が出来て有りがとうと逃がしてあげる体験もできた。

常に都会の子供には、もっと多様な自然との接点が必要だと感じているが、子供達はそれぞれの場所で生き物が多様な生き方をしていることを学べたと思う。最後に学校の視聴覚室で画像を交えながら、まとめとして自然界の生き物間の、「目には見えない“つながり”の大切さ」「食べることはつながること：食物連鎖」について学んでもらえた。



水辺で昆虫網を持って生きものを追う児童

私たちがおすすめする素敵な生き物、自然、風景、活動！

◇私達のいろいろな活動はすべて武庫ネイチャークラブのホームページでご紹介しています。是非ご覧ください。

◇毎月第3日曜日、県立甲山森林公園で子どもさんやご家族連れなど一般市民を対象に自然観察会や自然工作会を行っています。是非お立ち寄りください。自然観察アドバイザーがお待ちしております。



有馬富士公園で生き物探検隊スタート

■連絡先

代表者 青木俊之
〒665-0868 兵庫県宝塚市中山荘園1-37-2

TEL : 090-5063-1993
FAX : 0797-87-2648

■ホームページ <http://www.jttk.zaq.ne.jp/baasr600>

■E-Mail : aoki-tos@sepia.plala.or.jp

■主な活動地名

宝塚福祉コミュニティプラザ、宝塚市内小学校、甲山森林公園
宝塚自然の家、有馬富士公園、武庫川沿岸など

人とくらしと自然が融合できる社会環境づくりをめざして NPO法人 野生生物を調査研究する会



熱帯雨林をまもるため、植林をおこなう。

本会は、1992年に発足、1999年に法人格を取得し、「特定非営利活動法人 野生生物を調査研究する会」の名称で活動しています。主な活動は、自然観察会、河川流域の調査活動、里山保全活動、観察会、出版活動、国際協力などを通して、人とくらしと自然が融合できる社会環境づくりを目指した環境啓発活動を行っています。

1. 調査活動

野生生物の生態調査を柱にその地域のくらし、風土などを実態調査しています。今までに武庫川、猪名川、揖保川、大和川、由良川の流域を調査し、現在鶴見川（神奈川県）を調査中です。

2. 里山保全活動

1997年から兵庫県南東部の里山で活動しています。昭和40年代頃の里山にもどすことを目標に、毎月第一日曜を定例活動として、整備、保全をおこなっています。13年を経過し、ギフチョウ・キンラン・モリアオガエル・グンバイトンボ・ハッチョウトンボなど、環境省や兵庫県のレッドデー



河川の水生昆虫の調査



磯の観察。親子自然観察会の風景。

タブックに掲載される里山の生き物が確認され、里山保全とおもに貴重種の保護活動もおこなっています。

3. 学校教員を対象にした短期特別セミナー

1997年より教員対象のフィールド研修「特別セミナー」を川西市で始めて以来、毎年夏に開催しています。植物、昆虫、水辺の生き物などの自然観察の方法、ビオトープなど小中学校などで実際にできる環境学習のテーマを中心に学習するセミナーです。

4. 自然観察会

1997年に身近な自然とのふれあいを目的に親子自然観察会を行い、1999年に、自然について体験活動しながら継続的に学びたいという一般市民のために「ナチュラリストクラブ」を発足。身近な生物の観察を通して自然保護や環境について学びます。毎回、本会の会員が講師をつとめ、

毎月二回、里山保全活動と観察会を実施しています。

5. 国際協力事業

2003年 JICA の草の根支援を受けて、ブラジル国パラ州トメアスで、環境教育のテキスト作成、環境教育の実践、そして世界に残された数少ない熱帯雨林を保全するインストラクターの養成、未来の架け橋になる子どもちに「アマゾン自然学校」プロジェクトを実施しました。このプロジェクトを基に、この地域で、植林事業など地球温暖化防止に向けての熱帯雨林の保全を展開しています。



教職員対象としたセミナーは今年 14 回目に

6. 出版活動

「人・くらし・自然」をテーマにこれまでの調査活動の結果を「生きている河川シリーズ」として小学校高学年から中学生を対象にした副読本を作成し、各河川流域の小中学校にこれまで4万冊寄贈しました。それぞれの本は、出版物としても販売しています。



里山活動。背丈を超えたネザサを刈ります。

熱帯雨林の乱開発が進むブラジルのアマゾンで、2004年兵庫県の小学校での取り組みをヒントにした自然学校を開き、環境保護への関心を高める「アマゾン自然学校プロジェクト」に取り組んだ。JICA の「草の根技術協力事業」として、3年間のプロジェクト。プロジェクト終了後も、地球温暖化防止に森林が果たす役割は変わらない。「アマゾンの素晴らしさを住民自身が再認識し、ともに熱帯雨林を守っていこう。」と現在も私たちは活動を続けている。

■連絡先

代表者 黒田明彦
〒651-1332 兵庫県神戸市北区東有野台4-15-10

TEL : 078-981-2821
FAX : 078-981-2821

■ホームページ <http://www.wildlife.or.jp>

■主な活動地名

兵庫県南東部

身近な自然に、触れて学んで楽しもう ゆりのきフィールドウォーカー

ゆりのきフィールドウォーカー



トノサマガエル〈左〉
ヌマガエル〈中〉
ジョウビタキ〈右〉

わたしたちのこと

ゆりのきフィールドウォーカーは身近な自然に「触れて学んで楽しもう」を合い言葉に作られたクラブです。三田市立ゆりのき台小学校の子どもの居場所事業「ゆうゆうクラブ」から誕生しました。そのためメンバーは小学生がいる家族が中心でしたが、成長して中学生の参加も増えました。私たちの活動は自然を知るだけでなく、観察や体験を通して得た感動を分かち合い、伝えあうことを目的にしています。自然を大切に思うところから生き物のいのちや住んでいる地域を大切に思うところにつながってほしいからです。主な活動場所は小学校区です。校区には住宅開発時に残された自然や農村地帯があります。この恵まれた環境のほか学習面での環境がひとはく存在です。専門家の技術や知恵を借りたいときに研究員の先生方は丁寧に応えてくださいます。ときには博物館のセミナーにみんなで参加して、学ぶ楽しさも満



ひっそり静かなため池 んっ！なにかいる！？

喫しています。教えてもらった技術や知恵が次の気づきを誘い、新たな視点で自然を見る目を養います。自然の巧みさに出会うたび、身近な自然を大切に感じ、豊かな気分になっています。

共生の広場など博物館事業で知り合った連携グループとのつながりも私たちの収穫です。それらの活動に参加して、スキルを持ち帰り、活動内容が広がってきました。

今までの主な活動

公園の生き物調べ・田んぼの生き物調べ・冬の鳥観察会・ホタル観察と鳴く虫の夕べ・夜の昆虫観察会・水生昆虫をみつけよう・イナゴとりイナゴランチ・農家に学ぶ「わらすべ箸」づくり・「ふくろうのペレット」・キリンピオトープ観察会・NEC ガリレオクラブ(理科実験教室)・岸和田自然資料館友の会「チリメンモンスターを探せ」など



初めてのイナゴ エビのような味でした

これから

私たちは希少種を追い求めたり、保全したりする団体ではありません。でも足を運んでいるうちに、近くを流れる平谷川の様子が違ってきているのに気づきました。メンバーが持っている以前の資料をもとに、今年は平谷川の生き物調査を行い

ます。平穏そうに見えていた農家も昨年からアライグマの被害に悩まされています。小さな変化を、日ごろの観察やノート、仲間同士の会話が教えてくれます。データの大切さを知り、いままで調べたものをマップにすることが私たちの課題です。



みつめる目、目



春の公園 草笛吹いてるよ

1. 中内神の自然。田んぼを囲んで季節毎に生き物が集う。実りの後のイナゴとりとイナゴランチ食べられないって言う子どもや大人も平らげてしまう。刈り取られた田んぼには稲わらが敷き詰められ、フカフカいい気持ち。長いままの稲わらから芯だけ抜き取り束ねた「わらすべ箸」は美しく使いやすい。自然に寄り添っての生活、自然の恵みを余すことなく頂く生活は忘れていた何かを教えてくれる。
2. ゆりのき台中学校のケラ。夏の夜に聞こえる怪しげな響き。夜の学校は鳴く虫パラダイス
3. 平谷川。住宅開発時に河川改修された川。ここに「カスミサンショウウオ」がいたらしい。
4. 記録ノート。毎回持ち回りで記録してもらっている。自由に感想が述べられている。

■連絡先

代表者 隅野光代
〒669-1324 兵庫県三田市ゆりのき台4丁目30-4

TEL : 079-565-3734

■主な活動地名

兵庫県三田市

アサヒスーパードライは兵庫県の森づくりを支援します!

アサヒビール(株) 神戸統括支社

アサヒビールでは2009年春より「アサヒスーパードライうまい!を明日へ!」プロジェクトを実施しています。

このプロジェクトは春と秋の年2回の実施期間中に販売した「アサヒスーパードライ」対象商品1本につき1円を全国47都道府県ごとに設定した環境保護活動や文化財保護活動などにお役立ていただくプロジェクトです。兵庫県では県との協議の結果、兵庫県緑化推進協会の「緑の募金」に寄付し、コウノトリの生息環境を守る森づくりや目の不自由な方が楽しめる香りの森づくりをはじめとした里山保全活動にお役立ていただいで

ます。2009年には約3,000万円の寄付をさせていただきました。また2010年1月には兵庫県在住の約100名の皆様と川西市黒川地区の里山保全活動を実感する学習ツアーも開催しました。このプロジェクトを通じ、少しでも兵庫県の里山をはじめとした森づくりに貢献できればと考えています。さらにアサヒビール神戸統括支社では、社員の自然保護活動への理解・意識向上を図るため、里山保全ボランティア活動も積極的に実施しており、神戸市北区の「神付・産土の森」、川西市黒川地区の「クヌギの森」、三木市の「県立三木山森林公園」などで森林ボランティアの皆様へ指導を受けながら植林・間伐・下草刈などの活動を行っています。

兵庫県西宮市にありますアサヒビール西宮工場においても、「ビールは自然の恵みからつくられている」との想いから、また地元・兵庫県の自然環境保護に貢献したいという考えから、2009年5月に兵庫県丹波県民局、遠阪森づくり協議会、丹波市、アサヒビール西宮工場の4者で「森づくり協定書」を締結いたしました。

この協定書は兵庫県丹波市青垣町遠阪地区の森林保護を目的としており、2009年11月に社員が地元の皆さんと現地で間伐や下草刈等の作業を行いました。

た。本年も5月に2回目としてモミジの植樹等を実施し今後の活動に繋げていく予定です。

アサヒビールでは、引き続き地域社会の自然環境保護に微力ではありますが貢献してまいります。また、「アサヒスーパードライうまい!を明日へ!」プロジェクトに対する県民の皆様のご理解・ご賛同を得られるように努力していきたいと考えています。是非、ビール1本でできる兵庫の豊かな森づくり活動にご理解・ご賛同をよろしくお願い致します。



伝統ある炭作りを守るためにクヌギを植えました!



皆で力を合わせ森に光を入れる間伐作業を!



森の中で慣れない作業にも挑戦!



作業を終えて森林ボランティアの皆さんと!

■連絡先

代表者 支社長 高橋静雄
〒650-0023 兵庫県神戸市中央区栄町通1-1-18
三井住友海上神戸ビル4F

TEL : 078-333-1301
FAX : 078-333-1316

■ホームページ <http://www.asahibeer.co.jp/kobe>

■交通アクセス

ふれあいの森づくりを目指して!!

株式会社エヌ・ティ・ティドコモ 関西支社 神戸支店

NTTドコモでは、1999年から自然環境保護活動及び社員の環境意識向上、ボランティアマインドの醸成を目的として、全国47都道府県に「ドコモの森」づくりを推進しています。「ドコモの森」は林野庁の法人の森林制度と社団法人国土緑化推進機構の緑の募金制度や、各都道府県が実施している企業の森づくりサポート制度などを活用し、全国46都道府県、48ヶ所、総面積約192ヘクタールとなりました。これは、野球場（グラウンド面積1.3ha）の約148個分に相当します。（2010年3月末現在）



階段を作ってみました

そして、兵庫県内においては、三田市にある千丈寺湖畔の加茂山に『ドコモ兵庫三田の森』を2008年11月26日に開設し、森林整備活動を行っています。森を紹介させていただくと、広さは約1haほどで、比較的傾斜が緩やかな森です。環境高林としてヤマザクラをシンボルツリーに、コ

ナラの高木の下に、コバノミツバツツジや夏緑樹といわれる落葉広葉樹を中心に、花やみどりにあふれた生物多様性を意識した森づくりをめざしています。開催までは、不運なもので新型インフルエンザの影響や悪天候による活動の延期もありましたが、ようやく2009年10月17日に第一回目の活動を無事開催することができました。森林整備活動とはいっても、経験者がほとんどおらず、何から始めていったらよいのか悩みつつも、NPO法人ひょうご森の倶楽部、兵庫県立人と自然の博物館の方々のご支援をいただき、初めての活動を進めることができました。活動を通じて森づくりに関して、本当に景観の良い森づくりができるのか不安もありましたが、活動を始めてみると、自分たちの森が目に見えて段々と変わっていく姿に、喜びややりがいを感じる声が参加者からも数多くあり、不安が今後の期待に変わってきたように感じています。

今後、遊歩道の整備や休憩用のベンチづくりなど、参加者が自分たちで自分たちの森をつくっていくことを楽しみとしてもらえるような活動をしていきたいと思っています。

『ドコモ兵庫三田の森』においては、隣接の千丈寺湖の景色と一体となった景観面に優れた、活動に来られた方がまた来てみたいという森にしていきたいと思っています。“森を学ぶ、森にふれる、森を守る、そして森を楽しむ”を基本姿勢とし、地球温暖化の要因とされるCO₂を吸収する貴重な森林を守っていきたく考えています。我々が目指しているのはふれあいの森です。森づ

くりを通じて人がふれあうことを第一の目的とし、活動を通じて、森の大切さ、森の生物を知るなどの教育を行っていきたくと思っています。また第二の目的として、ヤマザクラが多い森でもありますので、千丈寺湖畔からヤマザクラを見わたせる景観を意識した森づくりを行っていきたく考えています。

最後に、今後の理想な姿については、自主的な活動に努めることです。まだまだ時間がかかりそうですが、参加いただいた方々を中心に、森づくりを語り伝えていただければ、写真のようなイメージの森がみなさんの手で成し遂げたと感じる時がくる日を楽しみにして活動を継続していきたく考えています。

まだ活動も始まったばかりで、花とみどりにあふれた森と呼べるようになるのはもう少し先かも知れませんが、千丈湖畔沿いのわかりやすい場所にある森ですので、通りかかった際には是非ご覧下さい。



我々が目指す森のイメージです



みんな達成感に満たされています



Before



After（太陽の光がかなり入り込むようになりました。どんな植物が育ってくるのか楽しみです。）

■連絡先

代表者
〒651-0088 兵庫県神戸市中央区小野柄通4丁目1-22
アーバンエース三宮ビル3F

TEL : 078-271-6702
FAX : 078-251-2286

■交通アクセス



「山とくらしをつなぐ学びの森」をめざして 生活協同組合 コープこうべ

コープこうべでは、くらしと環境問題のつながりに気づき、身近なところから行動を起こすきっかけとなるよう、「お買い物にはマイバッグ」をキャッチフレーズに、マイバッグ運動をすすめています。現在、9割の組合員の方々がマイバッグを持ってご来店いただいておりますが、どうしてもレジ袋が必要な方には、有料（1枚5円）でご利用いただいております。

これにより集まったレジ袋代金は、1995年に運動をはじめた当初から、すべて環境の取り組みに活用しており、「コープの森・社家郷山」の保全・整備と、現地での学習・活動についても、この代金の一部を活用しています。兵庫県の「企業の森づくり制度」第一号となったこの取り組みは、NPO法人こども環境活動支援協会（LEAF）、兵庫県森林組合連合会の協力を得て、2008年度から10年間の予定ですすめています。

活動開始にあたって実施した、植生、ならびに鳥、昆虫などの生息調査をもとに、専門家を交えた「森林保全活動推進委員会」で、「落葉高木林を



ボランティアによるハイキング道点検と整備

中心とした多様な生き物を育む豊かな森づくり”をめざすことが確認されています。ここでの活動は、活動方針に沿って保全・整備をすすめながら、そのことを通じて、いかに多くの人々が活動に関わり、森とくらしのつながりを学び、実感していただくことを大切にしたいと考えています。

このため、活動の核となる組合員（市民）および職員のボランティアには、予め基礎的な知識・技術を習得するセミナーの受講をお願いしています。そして、ボランティアが自ら保全・整備活動を計画し、実践した結果を検証することを通じて、次の活動や学びのための装置づくりをすすめてもらいたいと考えています。

リーダー的な役割を任う人材を育てると同時に、森の保全・整備の必要性を一人でも多くの人に伝えるため、その入り口として、散策や除伐体験を通じて楽しく学ぶイベントも開催しています。また、組合員のグループが、子どもたちに森



「コープの森・社家郷山」案内看板の前でイベント参加者が記念撮影

の整備をわかりやすく伝える紙芝居を作成し、これを使った学習イベントを実施するなど、生協ならではの取り組みも行っています。

今後は、LEAFが管理している近隣の農地も活用し、落ち葉たい肥や水を通じて山と食べ物がつながっていることを実感し、さらには里山がくらしのなかに根づいていた時代の一端を体感することで、食べ物を得ることのたいへんさ、自然の恵みを生かす手法を学ぶ活動にも広げていきたいと考えています。



親子参加イベントで除伐体験



近隣農地でできた野菜を使ってカレーライスづくり

「コープの森・社家郷山」のプロフィール～現地調査から

- かつての「里山」でみられた植生が広がっています。
*アカマツ・モチツツジ群集や、コナラ・アベマキ群集を中心とした植生です。
*植物の平均出現数は、六甲山系全体よりやや多くなっています。
*ツツジ科の植物が見られるような明るい森から、常緑樹が繁茂し、多様性が低下しているエリアが混在しています。
*都市近郊にあるため、エリアによっては植栽起源の庭園木や外来樹種などの移入種も少なくありません。
- 里山の植生だけでなく、水辺、草地、岩場など、さまざまなエリアがあり、それぞれの環境に応じた多様な動物が生息しています。



■連絡先

代表者 組合長理事 浅田克己 TEL : 078-856-2068
〒658-8555 兵庫県神戸市東灘区住吉本町1丁目3-19 FAX : 078-856-1700

■ホームページ <http://eco.coop-kobe.net/forest/index.html>

■交通アクセス

さくらやまなみバス・・・JRさくら夙川・阪急夙川駅乗車
◇名来・有馬系統、北六甲台・金仙寺系統とも
：「かぶとやま荘」下車・徒歩1分
阪急バス・・・阪急夙川駅乗車
◇西宮甲山高校行き：終点下車・徒歩8分
◇甲山墓園前行き・五ヶ池行き：「西宮甲山高校前」下車・徒歩8分
阪急バス・・・阪急逆瀬川駅乗車
◇かぶとやま荘行き：終点下車・徒歩1分
阪神バス・・・阪神西宮駅乗車
◇鷺林寺線（東回り・西回り）：「西宮甲山高校前」下車・徒歩8分
※JRの場合、JR西宮駅から東回り線の「西宮警察署前」停留所が最寄（JRの駅から停留所まで徒歩5分）。

「シーズズ」は、自然環境にやさしい庭づくりをしています。 宝塚ガーデンフィールズ シーズズ

兵庫県宝塚市に位置する「宝塚ガーデンフィールズ」内の英国風ナチュラル庭園「シーズズ」は、日本で活躍中のガーデンデザイナー、ポール・スミザー氏のデザインにより、2003年9月26日に開業しました。92年の歴史を持つ遊園地「宝塚ファミリーランド」の跡地に開業し、遊園地内にあった「宝塚植物園」の歴史を受け継いでいます。その跡地に、歴史ある大木や昭和初期の大温室・洋館などを活かし、イギリスの庭に対する考え方をとり入れた、ただ眺めるだけの庭ではなく、その中で滞在し、くつろぎ、憩える場として、また、これからあるべき庭の姿として地球環境にも配慮した、多様な生物とも共生するオーガニックな庭として、四季折々の植物や風景が楽しめる地域の憩いの場として誕生したのが、英国風ナチュラル庭園「シーズズ」です。

歴史ある大木や建物を残すだけでなく、夏に現れるトロピカルガーデンは、「宝塚植物



宝塚植物園で作出されたネペンテス・ツジモト

園」の熱帯植物コレクションの一部を使って、南国の雰囲気たっぷりに庭を変身させます。また、「宝塚植物園」で作出されたウツボカズラの品種「ネペンテス・ツジモト」をはじめ、サラセニアやモウセンゴケ、ディオネア等の食虫植物の保存展示や、2009年からは、世界最大級の浮葉をもつ水性植物、パラグアイオニバス（ビクトリア・クルチアナ）の展示も行っております。

「シーズズ」では、殺虫剤や殺菌剤を使用せず、化成肥料も与えません。四季咲き性のバラなど、年に何度も花を咲かせ、多くのエネルギーを必要とするものに、有機肥料を少し与えるだけで、他の植物には、バーク堆肥を、毎年春と秋、

更に手入れをする毎に敷くだけです。こうすることで、堆肥が時間をかけて分解されていき、栄養たっぷりの土が出来上がります。害虫が発生してもそれを餌にする昆虫や野鳥が訪れ、そこには生態系が生まれているのです。

「シーズズ」の庭園ガイドツアーは、四季折々の見ごろの植物と見所の解説、オーガニックな庭の考え方、楽しみ方を知っていただけるツアーとなっています。また、ナチュラルな庭の作り方、考え方をガーデンデザイナーがレクチャーする「ポール・スミザーガーデンレクチャー」、キッズガーデンナー養成講座、シーズズスタッフが行う「ガーデニングセミナー」、植物や自然の不思議さや面白さを知っていただける「こども教室」なども開催しております。



ポールさんのキッズガーデンナー養成講座の様子



パラグアイオニバス（ビクトリア・クルチアナ）



カルガモの親子



シーズズ入り口周辺



■連絡先

代表者 奥村英之

〒665-8558 兵庫県宝塚市栄町1-1-57

■ホームページ [http:// www.gardenfields.jp/](http://www.gardenfields.jp/)

■E-Mail : info@hankyu-as.co.jp

TEL : 0797-85-6210

FAX : 0797-85-6300

■交通アクセス

阪急電車「宝塚駅」、JR「宝塚駅」下車 徒歩約10分
大阪・京都方面からお越しの方
阪急…「梅田駅」から宝塚線「宝塚駅」下車
JR…「大阪駅」から宝塚線「宝塚駅」下車

阪急バス、阪神バス「歌劇場前」下車 徒歩5分

中国自動車道「宝塚ICより、国道176号線を三田・有馬方面へ約2km

神戸方面からお越しの方
阪急…「三宮駅」から神戸線「西宮北口駅」で乗り換え、
今津線「宝塚駅」下車

「魅力再発見!本物の里山へ行こう!」「日本一の里山の自然と文化を満喫する」

能勢電鉄株式会社

・ 社の妙見ケーブル・リフト周辺は「日本一の里山」と言われており川西市黒川地区にあります。黒川地区では台場クヌギが多数存在していることから、当社所有地内においても、台場クヌギの小径の遊歩道（平成19年度、兵庫県ふれあい森づくり事業）を活用し、当地へ来場されるクッキングセンター等のお客様等に対し、台場クヌギの成り立ち、炭窯跡地の紹介等を案内し、本物の生きている里山を紹介しています。



炭焼き窯跡

・ エドヒガン（兵庫県での絶滅危惧種）の普及啓発として、当社所有地でボランティア活動中の川西里山クラブと連携し、エドヒガンの大木を鑑賞することが出来る遊歩道「エドヒガンの小径」を完成させ、今春の4月にはエドヒガンの小径のハイキング（410名参加）の実施。6月上旬には「エドヒガンの種採祭」と称し、種子を採取し、育てる方法を教授、また、参加者にはエドヒガンの苗木をプレゼントしエドヒガンを守り育てる運動を実践しています。



エドヒガンの小径

・ 妙見ケーブルご乗車のお客様に、薪炭林と里山についての車内放送を行い、車内ポスターでは、なぜ黒川地区が「日本一の里山」なのか4つのキーワード（歴史性・文化性・景観性・生物多様性）を掲示し啓発しています。



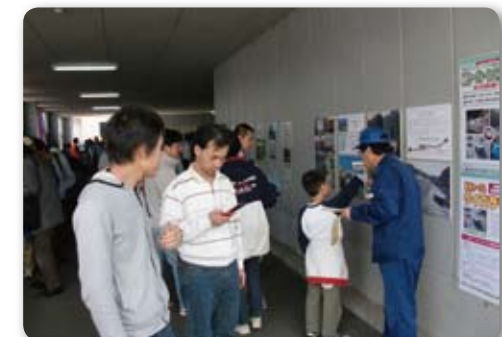
エドヒガン種採祭（2010.6.6）

・ 当社では、環境・自然観察を目的とした校外学習の教材として、小学校の学生様を対象とした里山学習の提案をいたしております。昨秋には、宝塚のH学園小学校様に、里山の現状を紹介するため炭と台場クヌギの相関を勉強して頂きました。



炭焼き窯跡の説明を熱心に聞く小学生

・ 当社は鉄道会社ではありますが、毎春秋に実施する鉄道レールウェイフェスティバルでは里山紹介コーナーを設け里山案内の説明、地元黒川地区等の催し物には積極的に参画し鉄道会社としてPR広報を担当している。



春のレールウェイフェスティバルにて里山説明

・ 秋には地元住民と一市三町（川西市・能勢町・豊能町・猪名川町）が共催して、里山の物産品紹介や木工クラフト教室等のイベントを開催し、子供から大人まで楽しみながら里山について学んでいただいた。

黒川が「日本一の里山」の理由

- 歴史性** 炭焼き、平安時代から。豊臣秀吉が久安寺での茶会の席で、池田炭（菊炭）を褒めた。
- 景観性** モザイク状の里山景観が存在。里山が生きている。（現状、山に入りクヌギで炭焼。人との共生）
- 文化性** 台場クヌギの存在。高さ1m位での伐採は、シカウサギ等から新芽を守る対策。
- 生物多様性** クヌギ林の昆虫群集。カブトムシ、クワガタ等の日本を代表する昆虫採集地。

■連絡先

能勢電鉄 鉄道営業課 岡本淳一

〒666-0121 兵庫県川西市平野1-35-2

■ホームページ <http://noseden.hankyu.co.jp/>

■E-Mail : okamoto-junichi62@hankyu-group.jp

TEL : 072-792-7716

FAX : 072-792-7730

■交通アクセス

阪急電鉄・宝塚線「川西能勢口駅」で能勢電鉄にのりかえ「妙見口駅」下車

昆虫とふれあい生命の多様さと自然の大切さを学べる昆虫館

財団法人 伊丹市公園緑化協会

伊丹市昆虫館

伊丹市昆虫館は、「冬の渡り鳥の飛来地」「野鳥のオアシス」として知られる昆陽池公園の中にある「楽しい」「わかりやすい」「体験できる」自然史系博物館です。コンセプトは「私たちの身近にくらす昆虫たちとふれあい親しむことで、多様な生命に気づき、自然の大切さや環境の変化を感じる人を育てる昆虫館」。館内には工夫を凝らした様々な展示があります。亜熱帯の木々や花々が植栽されたチョウ温室（高さ15m、広さ600m²）には、常時約14種類1000匹のチョウが舞い、吸蜜や交尾・産卵の様子を間近でじっくりと観察する事ができます。生態展示室では、ゲンゴロウやタガメ等の水生昆虫、昆陽池公園や阪神間で観察できるクビキリギスやオオカマキリ等の身近な昆虫、子どもたちに絶大な人気を誇るヘラクレスオオカブトやニジイロクワガタ等の外国産甲虫類等、様々な昆虫の姿や行動を観察できます。学習室には、昆虫や自然に関する図書を約2000冊設



チョウ温室では、一年をとしチョウの観察が可能です

置しているだけでなく、おりがみコーナーやぬりえコーナー等幼児でも楽しみながら自然に親しめる体験コーナーもあります。大型スクリーンのある映像ホールでは、「オオゴマダラ誕生」「多彩な昆虫のくらし」「うんこがぼろっ」等、パリエーション豊かな伊丹市昆虫館オリジナル映像ソフトを上映しています。

学芸員の個性が活かしている「むしのうんこ」「むしのあかちゃん」「はやにえ」「昆虫食」「ごきぶり」等、ユニークな切り口の企画展示も評判です。他にも、世界の珍しい昆虫標本を展示した特別展示室、身近に生息する昆虫の世界を10倍に拡大する事でわかりやすく再現したジオラマ、ミツバチの体のつくりを学べる200倍のミツバチ模型「ビッグビー」等、多様性に富む昆虫の世界に関する資料を数多く展示しています。

展示以外にも、「セミの羽化」や「ミツバチ」等の自然観察会や「昆虫標本の作り方」等の講座、



昆陽池のほとりに立つ伊丹市昆虫館

■連絡先

代表者 館長 後北峰之

TEL : 072-785-3582

〒664-0015 兵庫県伊丹市昆陽池3丁目1番地 昆陽池公園内

FAX : 072-785-2306

■ホームページ <http://www.itakon.com/>

■E-Mail : ge7n-skmt@asahi-net.or.jp

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

昆虫類を中心とした生物多様性に関する資料・情報の収集／展示・観察会等のイベント・出講等による普及・啓発活動

他にも各種イベント・出講も精力的に実施しており、電話や電子メールで寄せられる昆虫や自然に関する質問にも学芸スタッフが答えています（平成21年度質問受付実績：652件）。学校関係との連携も重視しており、環境体験学習支援やトライ



セミの羽化観察会



環境体験学習講師として出講

やるウィークの受け入れはもちろん、幼稚園・小学校の児童を対象に自然や昆虫の面白さと奥深さをわかりやすく伝えるための学習プログラムの開発に力を注いでいます。近年では他の博物館や地域との連携を積極的に行っており、なかでも伊丹市内の商店街、博物館、文化施設の連携事業として秋に実施している「鳴く虫と郷町」は、鳴く虫を軸として秋を楽しむ様々な展示イベントを行い、まちぐるみのイベントに成長しています。



工夫をこらした学習プログラムの様子



■交通アクセス

電車：阪急伊丹駅またはJR伊丹駅下車、伊丹市営バス乗り換えバス：阪急伊丹駅・JR伊丹駅前の伊丹市営バス4番乗り場から乗車15分。「松ヶ丘」バス停下車徒歩12分。

自動車：国道171号線 伊丹市役所前交差点北進2分。

駐車場：昆陽池公園駐車場（有料）をご利用ください。

甲山自然環境センターで いっぱい自然を体験しよう!

甲山自然環境センター

甲山周辺は都市近郊にありながら比較的良好な自然環境が残されています。街中からほんの少し足を伸ばせば、そこには森林、田畑、河、池、都市公園など豊かな自然が広がり、鳥、鈴虫、魚など様々な生きものを見ることができます。また、西宮市が生物保護地区として指定している甲山湿原には貴重な動植物が生息しています。

今年は生物多様性保全の国際会議が日本で開かれます。絶滅しそうな生きものだけでなく、その生きものが暮らす自然環境もあわせて大切にしようということが共通の理解となっています。甲山自然環境センターでは、甲山グリーンエリアを将来に引き継げるよう、様々な主体とのパートナーシップで保全活動、環境学習を進めていきます。

また、甲山自然環境センターには、甲山自然の家、甲山自然学習館、甲山キャンプ場、社家郷山



川での生きもの観察



甲山自然学習館の様子

キャンプ場の4つの施設があります。野外活動団体、スポーツクラブ、子育てグループ、音楽・演劇サークル、大学ゼミ、企業、ご家族など年間約40,000人の方々が、自然体験やレクリエーション、合宿、社員研修などの様々な過ごし方、楽しみ方で施設をご利用されています。西宮の宝物、甲山の貴重な自然環境に囲まれつつ自然に学び、自然と親しむ体験をしてみませんか！

美しい樹々や草花、鳥や虫など、生きものたちの姿に心満たされることでしょう！

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

展示学習／セミナー・講習会の開催



施設の全体像



甲山自然の家の受付



■連絡先

代表者 小川哲生
〒663-8143 兵庫県西宮市甲山町67番地

■ホームページ <http://kabuto.leaf.or.jp>

■E-Mail : kangaku@nishi.or.jp

TEL : 0798-72-0037
FAX : 0798-72-0037

■交通アクセス

甲山自然の家・甲山自然学習館・甲山キャンプ場
阪急バス：五ヶ池行き「関学道」下車 徒歩2分
阪神バス：鷲林寺線「甲山大師道」下車 徒歩10分

社家郷山キャンプ場
阪神バス：鷲林寺線「甲山高校」下車 徒歩10分
さくらやまなみバス：有馬系統、金仙寺系統
「かふとやま荘」下車 徒歩5分

地域・学校・事務所などにおける環境学習活動をサポートします!

環境学習サポートセンター

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応／展示学習／セミナー・講習会の開催／活動に関する相談・アドバイス

甲子園浜自然環境センター、甲山自然環境センターに続く環境学習の新しい拠点として、西宮市環境学習サポートセンターがオープンしました。同センターは、地域・学校・事業所などにおける環境学習活動を様々な面からサポートします。

西宮市内をはじめ兵庫県、国、世界での環境活動やESD（持続可能な開発のための教育）に関する情報提供を行い、市民・事業者の皆さんが取り



館内の様子

組んでいる環境活動の情報交流の場として幅広い世代の皆さんに利用していただき、地域に根ざしたエココミュニティづくりをすすめています。

また、川（水辺）の自然を学習する施設として、館内ではミニミニ水族館を設置しており、西宮市で生息する淡水魚などを展示しています。

皆様の積極的なご利用をおまちしております。



ミニミニ水族館



水質浄化学習システム



館内の様子



■連絡先

代表者 前田俊樹
〒663-8143 兵庫県西宮市甲風園1丁目8-1
コープこうべゆとり生活館アミ1階

TEL : 0798-67-4520
FAX : 0798-67-4523

■交通アクセス

阪急西宮北口駅下車
北西出口より徒歩5分

■E-Mail : kangaku@nishi.or.jp

環境問題を楽しく学ぶプログラムをご用意しています!

国崎クリーンセンター啓発施設 環境楽習館「ゆめほたる」

国崎クリーンセンター啓発施設・環境楽習館「ゆめほたる」は、世界トップクラスのごみ処理技術を見学できる他に、展示室、環境情報センター、各種工房、そして研修室等を備え、次世代を担う若者たちに、地球環境の視点から社会を考える場を提供する施設です。また、恵まれた自然環境の

中で、里山が自然の宝庫であること、そして生物多様性という観点から、人間の生活と自然の関わりによって、里山が重要な役割を果たしていることを学んでいただけます。



●見学案内
みなさんが出している「ごみ」を処理する工程や展示室等を見学ガイドしています。



●各種セミナー
自然と環境をテーマにした各種セミナーを開催しています。

■連絡先

代表者 鈴木 榮一 (所長)
〒666-0103 兵庫県川西市国崎字小路13番地
国崎クリーンセンター啓発施設 環境楽習館「ゆめほたる」
●ホームページ <http://www.kunisakicc.jp>
●E-Mail : info@kunisakicc.jp

TEL : 072-735-7282
FAX : 072-735-7283

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応/展示学習/セミナー・講習会の開催/活動に関する相談・アドバイス/共同調査・研究/自然学習ゾーン見学会 (ヒメホタル観察、野鳥観察など)



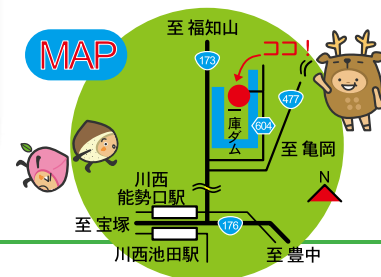
●自然観察会 (自然学習ゾーン)
【ヒメホタル観察会】
平成22年度は、兵庫県立人と自然の博物館との連携で、インストラクター養成講座を設けました。



●自然観察会 (自然学習ゾーン)
【野鳥観察会】
今年も施設の近くで、アオサギがコロニーを作っています。



●ネイチャークラフト (ワークショップ)
環境にやさしい、自然とふれあうことのできるワークショップを実施しています。



■交通アクセス

国崎クリーンセンターへは、お車でお越しください。最寄り駅からのバスはございません。
●お車をご利用の方 (川西方面より)・・・国道173号線を北上、一庫ダム方面へ。
最初のトンネルを抜けて井補野交差点より県道604号線へ、笹ヶ谷トンネルを抜けてすぐ左手 (井補野交差点より約5 km)。(※敷地内に駐車スペースを用意しています)
●電車をご利用の方・・・能勢電鉄ときわ台駅よりタクシーで13分、山下駅よりタクシーで15分。

甲子園浜自然環境センターで自然と触れ合おう!!

甲子園浜自然環境センター

甲子園浜は、西に隣り合う御前浜・香櫛園浜とともに大阪湾に残る数少ない砂浜と干潟になっています。

干潟には、カニや貝、ゴカイなど海の小動物がたくさん住んでいます。東南アジアやシベリアを

行き来する渡り鳥はそれらが大好きで、浜辺は春と冬には、渡り鳥たちの休息と栄養補給の場になります。甲子園浜は、1978年11月に環境省指定の鳥獣保護区になり、一部は特別保護地区になっています。



甲子園浜自然環境センター

■連絡先

代表者 田中康孝
〒663-8143 兵庫県西宮市枝川町19-10

■ E-Mail : kangaku@nishi.or.jp

TEL : 0798-49-6401
FAX : 0798-49-6578

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応／展示学習／活動に関する相談・アドバイス

その甲子園浜に面する海の世界学習施設「甲子園浜自然環境センター」では、自然豊かな浜の保全と市民の皆さんの自然観察・環境学習活動の支援をしています。3階の学習交流室では、渡り鳥を観察できるコーナー（双眼鏡配備）、環境活動に関する情報提供コーナーが設けられ、海浜に関する図書や野鳥のパネルもあります。1階はミニミニ水族館と研修室になっています。



ミニミニ水族館



3階学習交流室



甲子園浜の干潟の様子

■交通アクセス

阪神バス：浜甲子園線「浜甲子園駅」下車
南へ徒歩5分

岡田山の森から自然のあり方を考える

神戸女学院大学 動物生態学研究室

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

セミナー・講習会の開催／活動に関する相談・アドバイス
／共同調査・研究

神戸女学院大学は西宮市岡田山というところにあります。岡田山は「山」といっても段丘地形で、平地からは「山」のようですが、登ってみると上にも平坦地が広がっています。キャンパスの校舎は、有名な建築家 W. M. ヴォーリズの手によってこの地形を巧みに取り入れて配置されており、岡田山の自然に溶け込んでいます。キャンパスの中に入ると、段丘の斜面に残された森に囲まれ、まるで都会から離れて大きな森の中にいるかのようにさえ感じます。しかし、上空から見ると、岡田山はじつは小さな緑の島であることがよくわかります。

本学の環境・バイオサイエンス学科にある動物生態学研究室の活動は、この岡田山に生息する昆虫や動物を対象としたフィールドワーク中心の調査研究が大きな割合を占めています。たとえば、キシノウエトタテグモという地中性のクモは、都



キシノウエトタテグモの巣穴 (右)。蓋を閉じたところ (左)。

会に残された社寺林などに多いとされていますが、分布が限定されており、環境省 RDB では準絶滅危惧種に指定されています（兵庫県版 RDB では A ランク）。このクモは岡田山にも生息するので、研究室に所属する学生がキャンパス内での分布や食性を調べる研究テーマに取り組んできました。岡田山の森が、希少種の保全に必要な基礎研究のための場所を提供しているのです。

この他にも、岡田山は、都会の森に特有の問題を研究するのにかっこうの場所となっています。研究室では、このキャンパスにチョウ、アリ、ハナバチなどの昆虫についてどのような種が生息しているのかといった研究も行っています。正確な記録というにはまだまだ不十分ですが、今の時点でできるだけ詳しいデータを残しておくことは、とても大事なことです。というのは、今や森林は人の手によって範囲を狭められ、多かれ少なか

れ孤立した状況におかれているため、森の規模や孤立の状況によって、どのくらいの生物が棲めるのか、将来にわたって十分な生物生産が可能なのかを知ることがたいへん重要になっているからです。都市という海の中に緑の島として浮いている岡田山を、一つの実験場として、重要なデータを提供することのできる場にしていきたいと考えています。

研究室では、岡田山だけでなく兵庫県の全域を対象にして竹筒トラップを設置して、管住性ハチ・アリ類の生息調査も行っています。この竹筒トラップでは、昆虫やクモの捕食者であるカリバチ、花から花粉を集めるハナバチ、地上で大きな影響力をもつアリ、さらにカリバチやハナバチの天敵である寄生者など、異なった生態的役割をもつ生物群を調べるができるので、生物多様性の豊かさを測る手法として、近年注目を集めるようになっています。地域ごとにいろいろな環境で

竹筒トラップのデータを集めることで、陸上生態系で重要な役割を果たしている昆虫類の生物多様性についてより具体的に把握できると考えています。竹筒トラップは、誰でも楽しく調査することができます。いろいろな地域で、ぜひ試してください。



竹筒トラップ設置中



西宮市岡田山の神戸女学院キャンパス

■連絡先

代表者 遠藤知二

〒662-8505 兵庫県西宮市岡田山4-1

神戸女学院大学 人間科学部 環境・バイオサイエンス学科

■ホームページ <http://www.kobe-c.ac.jp/courses/human/bio/>

■E-Mail : endo@mail.kobe-c.ac.jp

TEL : 0798-51-8658

FAX : 0798-51-8560

■交通アクセス

●電車ご利用の場合

阪急電鉄「門戸厄神」下車徒歩約10分

●タクシーご利用の場合

阪急電鉄「西宮北口」駅より約10分



みて ふれて 感じて 貝の世界を楽しみましょう

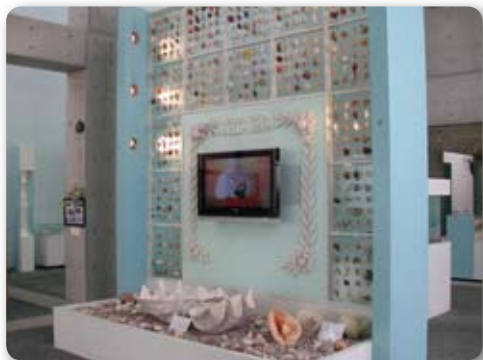
西宮市立西宮市貝類館

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応／展示学習／活動に関する相談・アドバイス／
その他標本同定など

西宮市貝類館は1999(平成11)年5月に西宮浜に開館した貝類専門の博物館。基本となっているのは黒田徳米博士が集められた標本約45,000点、文献類約500点である。現在では開館以来の寄贈や購入などを含めて標本類は約10万点に達し、文献類も約2,000点になる。膨大な貴重な資料を有する貝類専門の博物館は全国的にも珍しい存在である。

この貴重な標本の中には黒田博士が貝類に名前を付けた模式標本が約250点存在する。黒田博士は存命中約700種の貝類に学名を命名したが、採集者本人に返却して存在が分からなくなったり、所有者が他の博物館に寄贈してそちらで収蔵されたりと、手元に残っていた標本は約3分の1。これも貝類学者として偉くなっても何時も謙虚であった黒田博士らしい一面である。貝類館ではこの模式標本を大切に保管し、貝類を研究する方々の役に立てている。



大きな貝、小さな貝、カラフルな貝など目に飛び込んできます

博物館の役目として資料を収集保管することにより、研究者やこれから学ぼうとする人達への資料閲覧の便宜を図ることも重要な任務であると思われる。その為多くの資料を有する当館には海外からも閲覧や問い合わせなども多く、ご希望に応じて対応している。

もう一方では開かれた博物館として、市民に対して展示を通して貝の世界を知り、取り巻く環境の勉強をしてもらっている。

海産、淡水産、陸産の貝類は世界中に約8万種以上、日本には約1万種近い貝類が棲息している。しかし人間活動による環境破壊や地球温暖化による生息数の減少、種の絶滅などが危惧されている。小さな貝類であるが故に大きな影響を受けていると思われる。貝類館では展示を通して貝類の生態、棲息を学び、生息環境がいかに大きな影響を与えているかを感じてもらい、また反対に世

界にはこんなに多くの美しい、多様性に富んだ貝類がいることを実感してもらっている。

身近にある浜辺を訪れると海辺の生き物に驚く子ども達がいる。6月頃には川辺でホテルを見ることが出来る。山へ行くと木についているカタツムリを見つけることが出来る。何気ないそんな環境が大切であることを知ってほしい。子ども達も含めて、貝を通して自然環境の大切さを学び、私達が今後どうしていったらよいかを考えるきっかけとなってほしい。

人々に対する啓蒙をはかる一方、専門家に対する研究の場を提供しながらこれからも貝類館としての役割を考えていきたい。



子供達に生き物と触れ合う喜びを知ってほしいと開催しています



夏休みに集めた貝類や植物・昆虫の名前調べ



生きた化石といわれるオウムガイが泳いでいる



世界一大きくなるオオシャロガイ。200kgある



貝類館の基本標本となる黒田博士紹介コーナー



安藤忠雄氏設計でヨットの帆が風をはらむ様子を現しています

■連絡先

西宮市文化振興グループ
〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4-13-4

TEL : 0798-33-4888
FAX : 0798-33-5885

■ホームページ <http://www.nishi.or.jp/homepage/kairuikan>

■E-Mail : nishikai@nishi.or.jp

■交通アクセス

阪急西宮北口、JR西宮、阪神西宮駅より阪神バス、
マリナパーク行きに乗りマリナパーク南下車すぐ
阪神高速西宮出口、阪神高速湾岸線西宮出口より南、西宮浜へ



2009年出版
西宮市でみられる貝
115種

みなさんのいろいろな活動を応援します!

兵庫県立有馬富士公園

【公園紹介】

有馬富士とその麓の福島大池を中心に豊かな自然環境を活かした都市公園で、林・水辺・草地の各生態園や、棚田、里山、三田市有馬富士自然学習センターなど、多種多様な自然環境が残され、かつ、いろいろな人が楽しく快適に自然体験をできるように工夫されています。「みんなでつくるふるさと公園」を基本コンセプトに、人と自然の博物館や兵庫県、三田市、住民委員、学識者、(財)兵庫県園芸・公園協会等が連携した有馬富士公園運営・計画協議会が、住民参画型の公園運営をサポートしています。

【住民の参画と協働による活動】

園内の自然を活かして、いろいろな住民グループが、来園者向けプログラムの開催や、動植物等の調査研究、棚田や里山での継続した活動等を実践しています。有馬富士公園運営・計画協議会では、参画と協働の公園運営のひとつの手法として、「夢プログラム」というシステムのもと、こ



自然観察ハイキング

れらの活動を、広報の支援や、部屋・道具の貸出などを通して、積極的にサポートしています。また、小学校3年生の子どもたちに対しても、様々なグループが環境体験プログラムを実施しています。

【活動グループ紹介】

- 『キッピー棚田くらぶ』…棚田での田植え・稲刈り等の体験、年間通した棚田の管理など
- 『SAP Green Club (サップグリーンクラブ)』…園芸福祉・園芸療法、自然のクラフトなど
- 『里山レンジャー』…里山体験プログラム、環境学習のための里山づくり、外来種駆除など
- 『三田里山どんぐりくらぶ』…里山体験プログラム
- 『自然の学校』…自然観察会、棚田での生き物調査、年間通した棚田の管理
- 『森遊くらぶ』…自然のクラフト、年間を通した多様な森づくり活動



有馬富士と福島大池

■連絡先

代表者 有馬富士公園パークセンター
〒669-1313 兵庫県三田市福島1091-2

TEL : 079-562-3040
FAX : 079-562-0084

■ホームページ <http://www.hyogo-park.or.jp/arimafuji/>

■E-Mail : info_arimafuji@hyogopark.com

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

公園で活動する住民のみなさんの活動支援や各種講座の開催など住民の参画と協働による公園づくりをコーディネートしています。



小3環境体験事業

- 『ヒメカンアオイの会』…ギフチョウ・ヒメカンアオイの調査・保護活動
- 『ひょうご森のインストラクター会』…里山関係のプログラムなど
- 『水辺のフィールドミュージアム研究会』…水辺のピオトープ、自然再生活動
- 『緑の環境クラブ』…自然のクラフト、年間を通した里山の手入れ活動など

【人材育成】

環境学習の指導者養成講座や、里山連携講座、救急救命講習など、公園での活動を希望している人向けの養成講座や、すでに活動している人を対象としてスキルアップ講座等を開催しています。

【リーフレット「ふぁーぶるありまふじ」の発行】

住民グループのみなさんの得意分野の知識や、公園で調査をした結果等を取りまとめた、色々なテーマのリーフレットを発行しています。

【ネイチャー・アート・ギャラリー】

有馬富士公園をテーマとした写真や絵画、俳句、クラフトなどのアート作品を募集し、展示しています。一般来園者にとっては、普通では見られないような少し違った視点・観点から作品を見ることによって、公園の自然に新たな魅力を感じ



スキを使ったクラフト

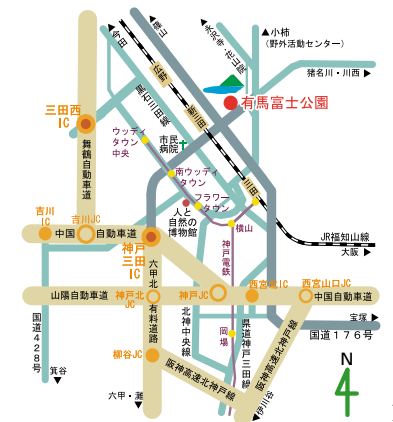


環境学習指導者スキルアップ講座

てもらうきっかけになればと思っています。

【最後に…】

有馬富士公園では、参画と協働による公園づくりを合言葉に、住民のみなさんの活動を積極的にサポートしていますので、公園で活動してみたいグループの方、あるいは、紹介しているグループの活動に興味のある方などがいらっしゃいましたら、ぜひ、有馬富士公園運営・計画協議会の事務局である有馬富士公園パークセンターまで、お気軽に声をおかけください!



■交通アクセス

<車>中国自動車道「神戸三田IC」より約15分、舞鶴自動車道「三田西IC」より約15分

<電車> JR 宝塚(福知山)線「新三田駅」下車→徒歩約30分、あるいは神姫バス20系統にて有馬富士公園前で下車(約5分)

※ただし便数が少ない

一庫公園で“日本一の里山”の自然を満喫しよう。

兵庫県立一庫公園

“県民(利用者)参画型の公園運営”を標榜する一庫公園では、活動団体の協力を得ながら、一般参加者の皆さんとともに、「生物多様性 三つの目標」の趣旨に沿って、さまざまな取り組みを展開しています。

■自然観察の森の手入れ《多様な生物が生息する環境づくりを目指して継続的に実施。》(写真1)



写真1

■クヌギ林の再現と炭焼き教室
《全国的に荒廃しているクヌギ林を公園内に再生させ、そのクヌギ材で年3回炭焼きを実施。》(写真2、3)



写真3



写真2

■エドヒガン桜の育苗・植樹
《実生を育てて、自然観察の森や周辺の里山にかえす。》(写真4)



写真4

■植生調査
《園内を40ブロックに区分して、各ブロックごとの植生等を調査。》

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応/展示学習/セミナー・講習会の開催/活動に関する相談・アドバイス/共同調査・研究/自然観察の森の維持管理・クヌギ林の再現と炭焼き・エドヒガン調査など

■自然観察はじめ隊
《植物・鳥・昆虫などをテーマにした自然観察会。》



■自然(里山)体験学習の受入《小学校3・4年生の自然(里山)環境体験の受け入れ。》



一庫公園で取り組んでいる活動やイベントには、全て一般の方が参加できます。恵まれた自然環境のもとで、自然にふれたい、何かをやりたいと思われる方をお待ちしています。

■薬剤を一切使わない樹木等の育成・管理



■キノコ教室など開催
《園内でキノコを採取し、同定するなど、多様な自然観察イベントなどを開催。》

■外来種調査・除去《園内の外来植物を調査・除去。》

■花と緑の教室《四季折々の花や木を使った実習・講義。》

■各種講習会の実施
《PTLファシリテーター養成講座などの各種講座や講習会を実施。》



■連絡先

代表者 財団法人 兵庫県園芸・公園協会
〒666-0103 兵庫県川西市国崎字知明1-6
一庫公園管理事務所

TEL : 072-794-4970
FAX : 072-794-4971

■ホームページ <http://www.hyogo-park.or.jp/hitokura/>
■E-Mail : Info_hitokura@hyogopark.com

■交通アクセス

能勢電鉄「山下駅」を下車→阪急バス「西能勢線」に乗車
「長原停留所」で下車し、公園ネイチャーセンターまで
徒歩で約30分



みなさんの生物多様性の取り組みを応援します！

兵庫県立人と自然の博物館

生物多様性に関するこんな仕事をしています。

質問対応／ホームページで学習素材／展示学習／セミナー・講習会の開催／活動に関する相談・アドバイス／共同調査・研究／企業 CSR 支援、行政に対するシンクタンク

わたしたち“人と自然の博物館（愛称：ひとはく）”と一緒に生物多様性の謎を解き明かし、生物多様性とともにご過ごす人と自然のよりよい関係を探ってみませんか？県内外で生物多様性に取り組む仲間の輪がますます広がるよう、「地域を愛する心を育み、地域の自然・環境・文化を未来に継承する」を合い言葉に、お手伝いいたします。

(1) ひょうごの生物多様性の姿の解明をすすめています。

生物多様性がどのように保たれているのか、また失われつつある生物多様性を守るための有効な手法・技術はどのようなものなのかについて研究し、現場で役立つ情報の提供に努めています。また、みなさんの協力を得ながら様々な分類群の生き物の県内分布を調査しています。現在、大・中型哺乳類、鳥類、淡水魚類、維管束植物のリストを公表していますので是非ご覧ください (<http://www.pref.hyogo.jp/JPN/apr/topics/biodiversity/index.html>)。



兵庫県の生物分布をとりまとめた報告書

(2) 生物多様性を身近に感じられるようお手伝いをしています。

大人から子どもまで様々な年齢の方に生物多様性について理解してもらえよう、様々な工夫や仕掛けを用意して待っています！



大人にも子どもにも大人気の封入標本

工夫を凝らした館内での展示・催し

生物多様性の様々な魅力を、研究員による工夫を凝らした造形を集めた特別企画展示やトピックス展などを通じて紹介。また、デジタル紙芝居や



生物多様性を身近に！海の生物の多様性を魚屋の店先風に紹介

ワークショップなどを親子で楽しめるフロアスタッフによるプログラムも毎日開催しています。

多彩なメニューのセミナー

年間約200タイトルの、生き物や自然に関するセミナーを実施しています。野外観察、実習、講義を織り交ぜた多彩なメニューを、用意しています。ご希望に合わせて開催する特注セミナーもありますので是非ご利用ください。



六甲山での植物観察会

仲間との交流の場

毎年2月11日に開催する、市民による生き物・自然・文化についてのなんでも発表会「共生のひろば」。地域の自然・環境・文化を愛する仲間が一堂に会して、生き物の魅力を学びあう楽しい交流会です。

「共生のひろば」は楽しい交流の場！



(3) 生物多様性と人との“よりよい”関係構築を支援しています

身近な自然における生き物の様子を調べ、保全し、伝えようとしている市民団体や個人に知識と技を伝授。必要に応じて、機材を貸し出し、共同で調査・研究を進めています。

また、県下の様々な事業が生物多様性に配慮した形で行われるよう、行政機関に対して指導・助言を行ったり、指針や計画、技術書の作成にも積極的に参画したりしています。

最近増えている企業による生物多様性への取り組み（ビオトープづくりや企業の森など）に対しても、専門知識・技術、学習機会を提供して、積極的に支援しています。



■連絡先

代表者 岩槻邦男（館長）

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館 生涯学習推進室

■ホームページ <http://hitohaku.jp>

■E-Mail : quercus@hitohaku.jp (担当：橋本佳延)

TEL : 079-559-2001

FAX : 079-559-2007

■交通アクセス

●電車ご利用の場合

神戸電鉄「フラワータウン駅」下車すぐ

●車ご利用の場合

中国自動車道「神戸三田IC」より5分

●バスご利用の場合（時刻表）

神姫バス「フラワーセンター前」下車すぐ